

漁業就業実態調査報告書

令和5年3月

函館市農林水産部水産課

調査の概要

1 目的

漁業就業実態の把握と将来的な分析を行い、今後における漁業就業者の確保ならびに漁業生産の維持に向けた施策の展開を図るため、本市独自の漁業就業実態調査を実施するものである。

2 調査対象

市内の漁業協同組合に加入する組合員（令和4年4月1日時点）

函館市漁業協同組合	158人	
銭亀沢漁業協同組合	58人	
戸井漁業協同組合	210人	
えさん漁業協同組合	423人	
南かやべ漁業協同組合	874人	合計 1,723人

3 調査方法

市内の各漁業協同組合へ調査業務を委託

- ・所属する組合員へアンケート用紙を配付・回収
- ・漁協で把握可能な項目について調査票（エクセル）に入力

4 調査期間

令和4年7月1日～10月31日

5 調査項目

(1) アンケート調査

ア 自身のことについて

年齢，世帯人数，漁業以外の仕事の有無，他職への従事歴

イ 現在の漁業経営について

漁業従事者数，年間支出額，漁業経営の課題

ウ コンブ養殖漁業について

コンブ養殖漁業着業の有無，着業しない理由

エ 今後の漁業経営について

今後の就業予定年数，今後の経営意向

オ 後継者について

後継者の有無，後継者の状況，新規着業者への設備提供の意向，
子どもが漁業を継がない理由

カ 漁業の魅力について：どんなところにやりがいや魅力を感じるか

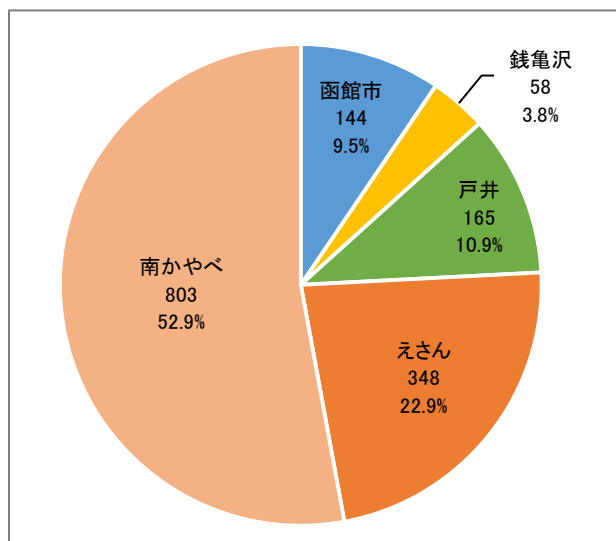
キ 自由記載（行政に期待する支援や要望など）

(2) 漁協聞き取り調査

組合員の種別（正・準・法人）、性別（男・女）、所有漁船数、主たる利用漁港、前浜船揚場利用、養殖施設台数、定置網（種別・台数）、同世帯

6 アンケートの回収

- (1) 配付数 1, 7 2 3 件
- (2) 回収数 1, 5 1 8 件
- (3) 回収率 8 8 . 1 %



7 その他

集計結果の数値を小数点以下第2位で四捨五入しているため、回答比率の合計が100%とならない場合がある。

■ アンケート調査

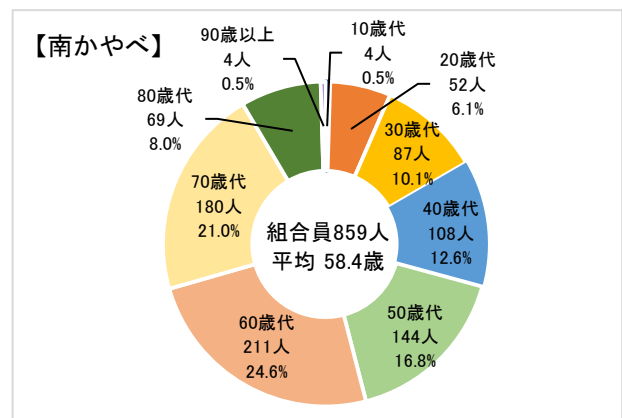
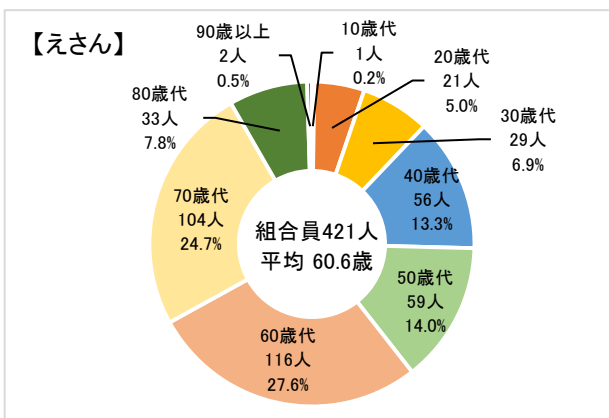
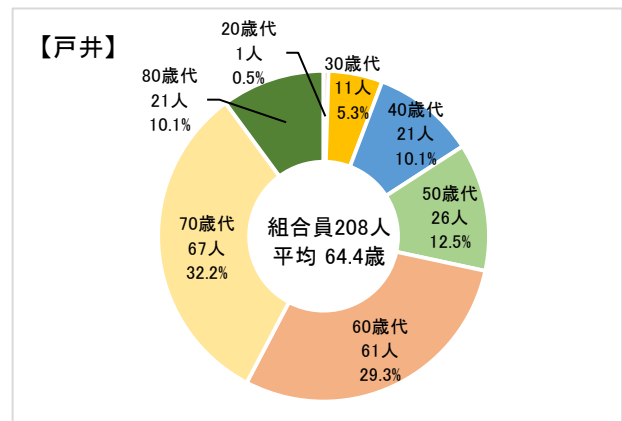
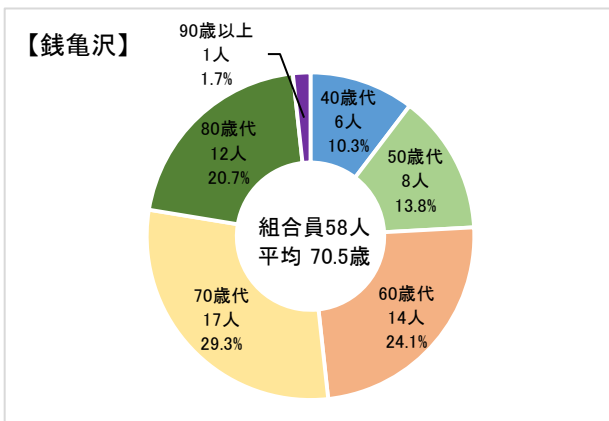
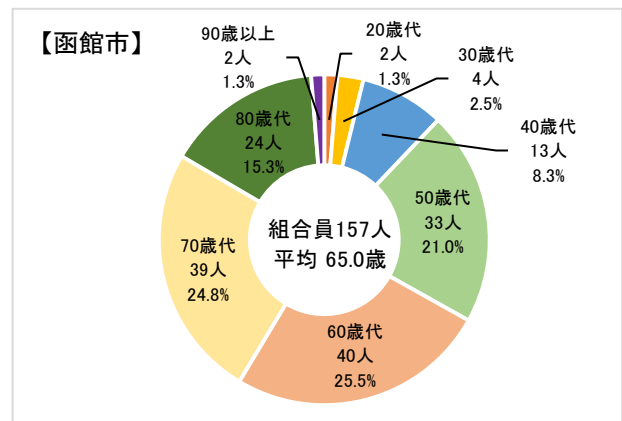
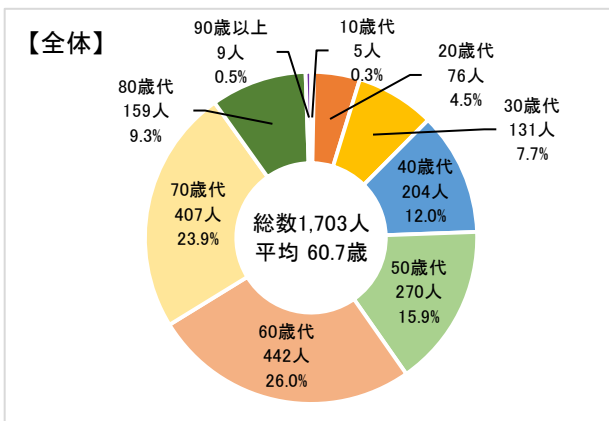
1 あなた自身のことについて

組合員全体の平均年齢は60.7歳で、年齢構成をみると「60歳代」が442人(26.0%)と最も多く、次いで「70歳代」が407人(23.9%)となっている。

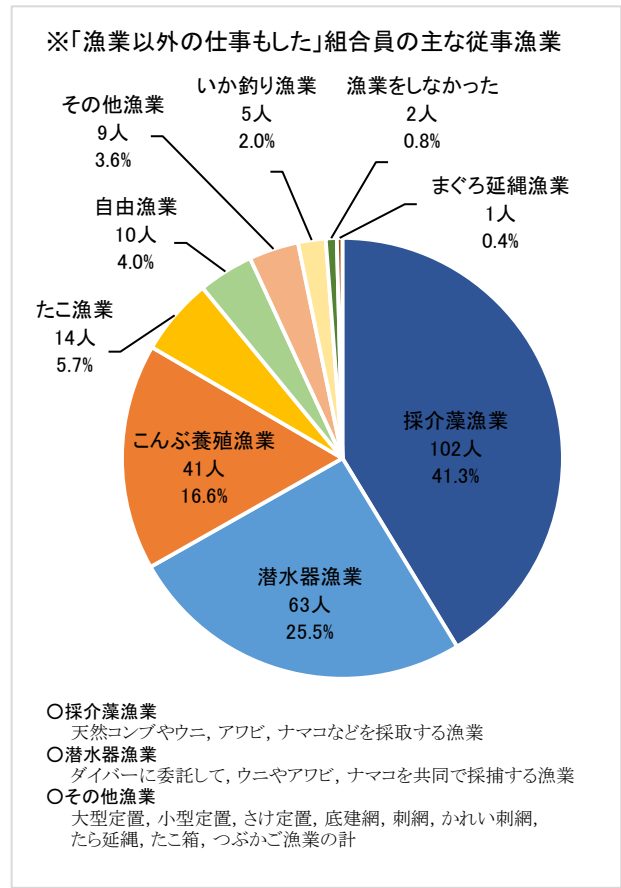
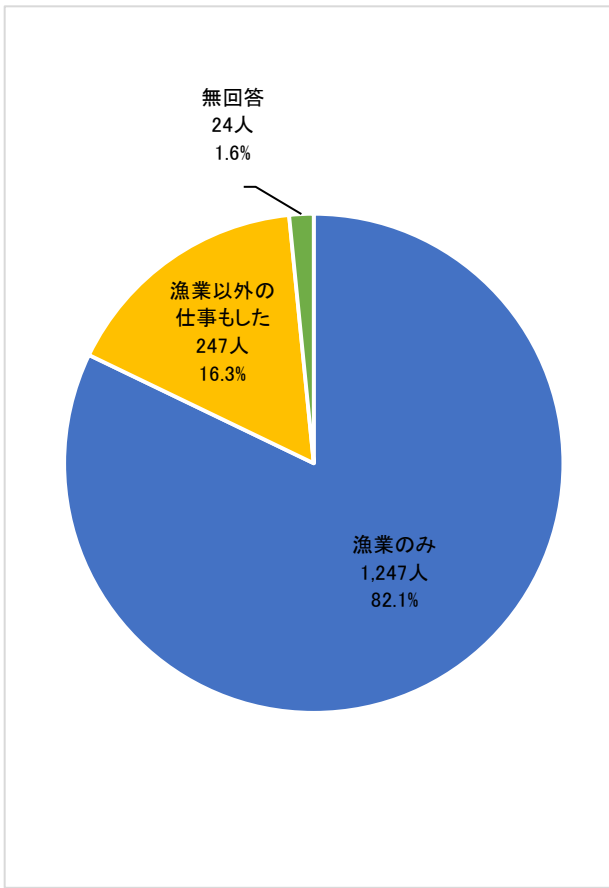
昨年1年間に漁業以外の仕事をしたかでは、「漁業以外の仕事をした」との回答が247人(16.3%)で、その7割近くが天然コンブやウニ、アワビ採取などの採介藻漁業や潜水器漁業に従事しており、水揚げが少ないなどの理由から、建設業や出稼ぎなどと兼業している。

漁業の前に他の仕事に就いたことがあるかでは、「就いていた」が522人(34.4%)で、その仕事を辞めて漁業に就いた理由として、約半数が「漁業を継ぐため」と回答したが、「漁業に興味があったから」との回答も一定数あった。

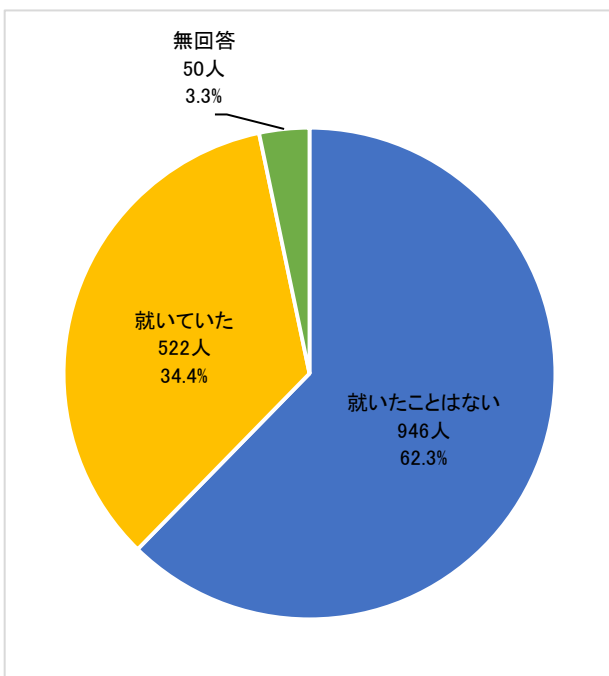
4月1日時点の年齢を記入してください。 ※法人組合員を除く



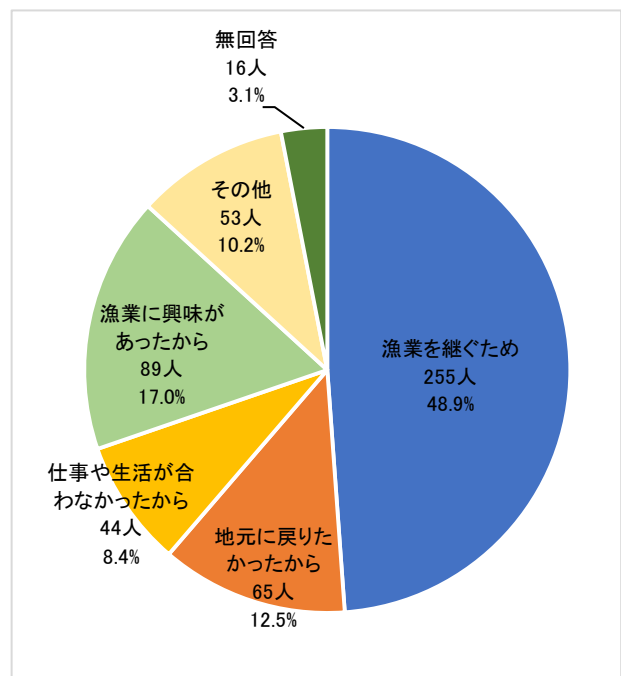
昨年1年間(令和3年1月～12月)に漁業以外の仕事をしましたか？



漁業の前に他の仕事に就いたことがありますか？



【他の仕事に就いていたと回答した方】
その仕事を辞めて漁業に就いた理由は何ですか？



2 現在の漁業経営について

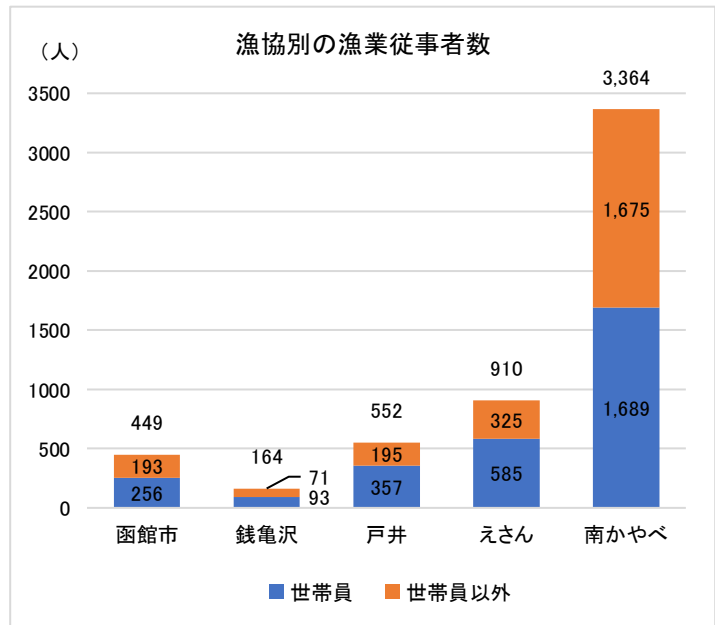
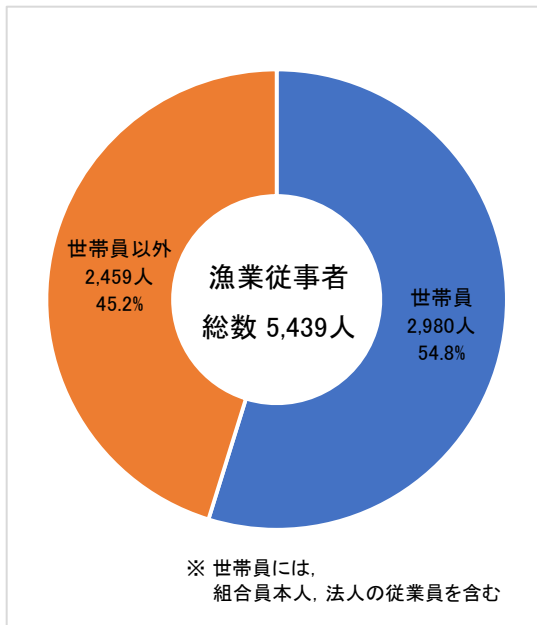
回答した組合員の漁業に携わっている人(漁業従事者)は、組合員を含む「世帯員」が2,980人、「世帯員以外」が2,459人で、世帯員の従事者に近い人数を世帯員以外の従事者で補われている。

1年間にかかった支出額(経費)の内訳は、人件費の割合が最も高くなっている。漁業種類別では、こんぶ養殖漁業など人手を多く要する漁業で人件費の割合が最も高く、いか釣り漁業やたこ漁業では燃料費の割合が最も高くなっている。

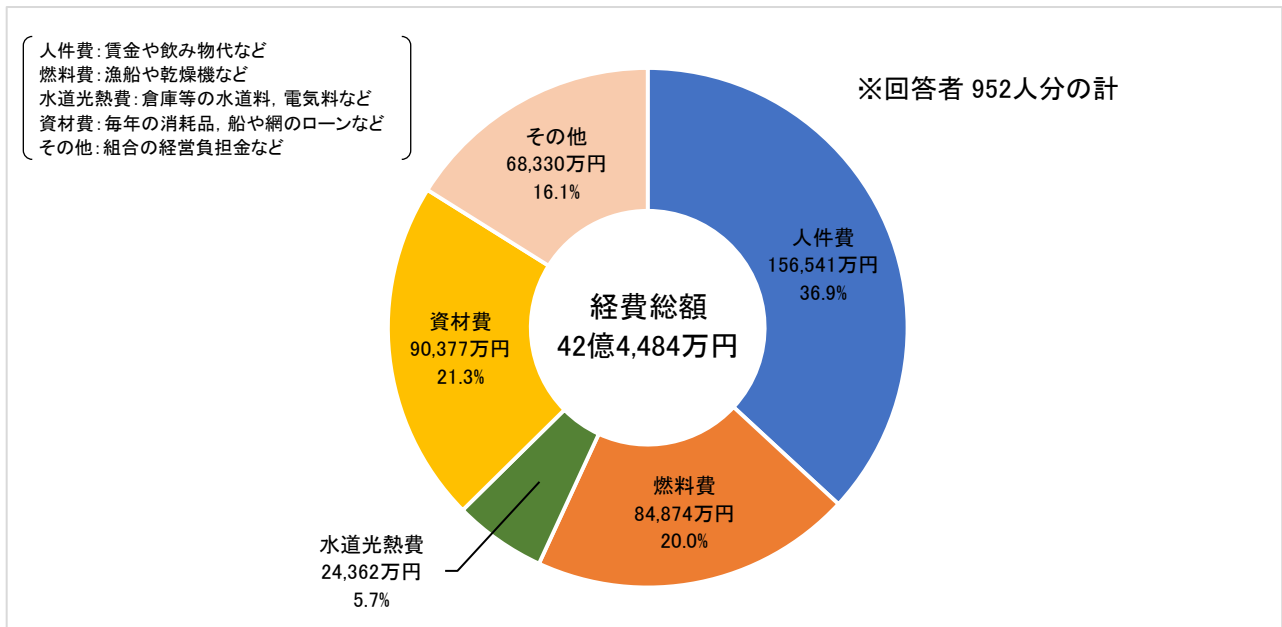
経営上の課題については、「魚やコンブなどの水揚げが減っている」が最も多く、「後継者がいない」、「従業員(手伝い)が確保できない」との回答も一定数あった。

あなたの漁業に携わっている人数を記入してください。

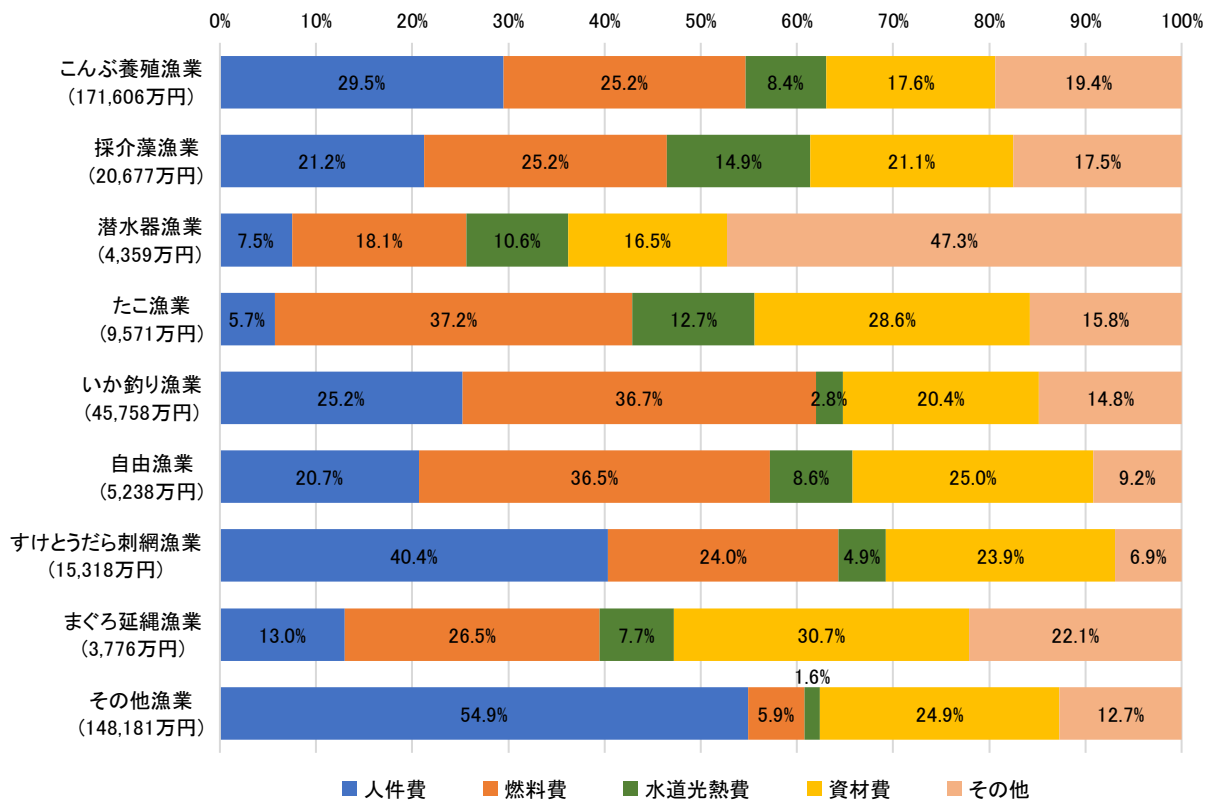
- ・世帯員(あなたを含む)で携わっている人 ※法人は従業員数を記入
- ・世帯員以外で携わっている人



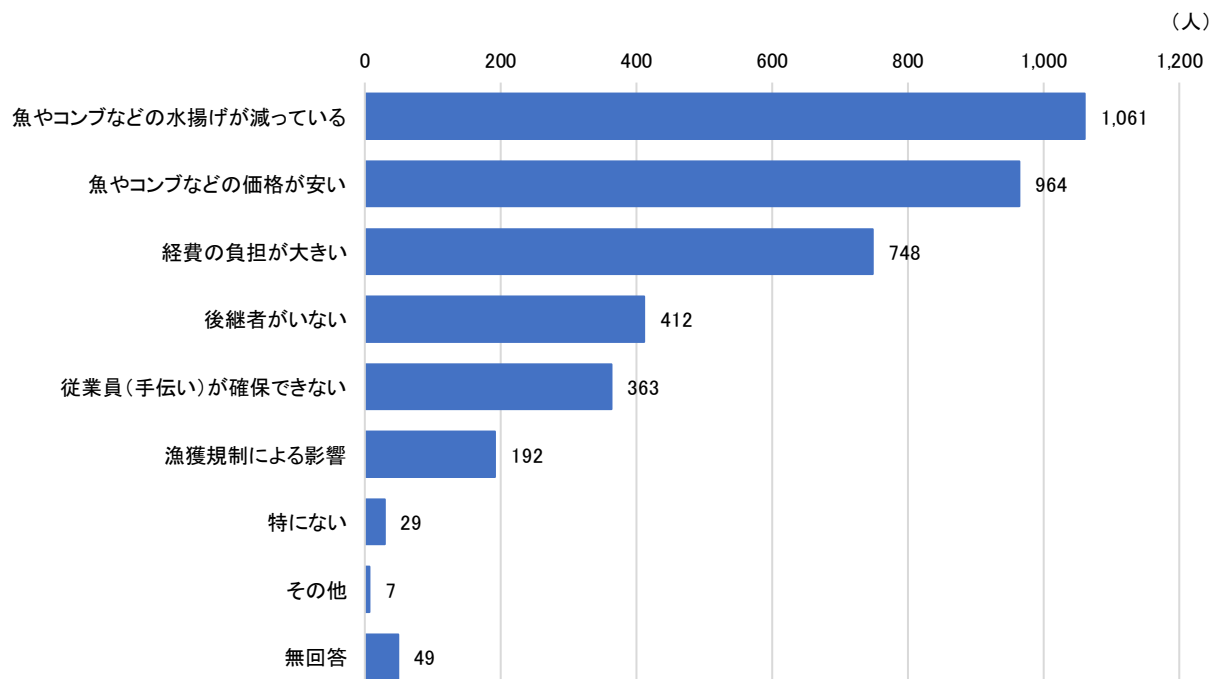
昨年1年間(令和3年1月~12月)の漁業にかかったおおよその支出額を記入してください。



年間支出額(漁業種類別)



漁業をしているうえで課題となっていることはありますか？(3つまで)

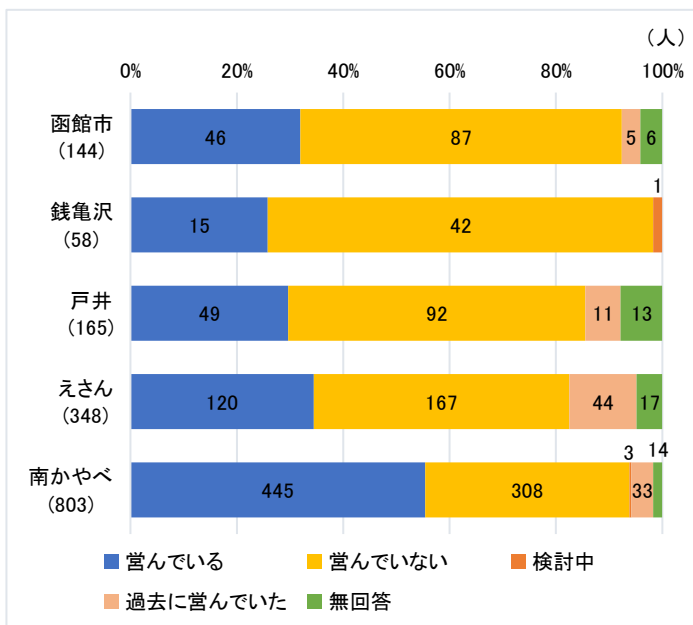
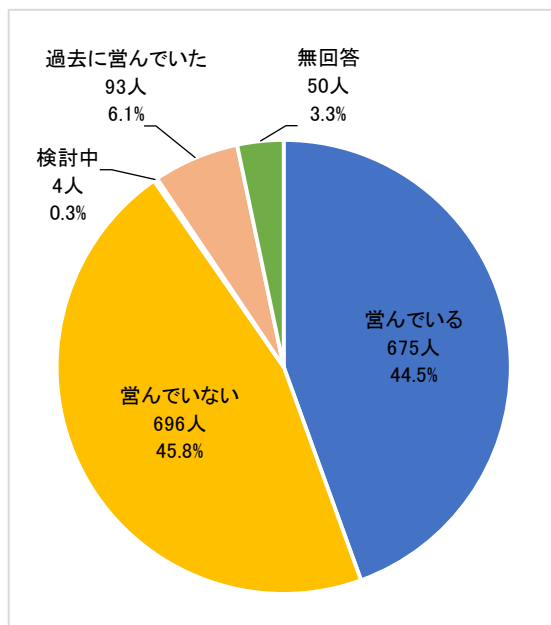


※その他(7): 年齢的・体力的にきつい(3), 労働時間の割に収入が少ない(2), 設備が高額(1), 従業員(手伝い)の高齢化(1)

3 コンブ養殖漁業について

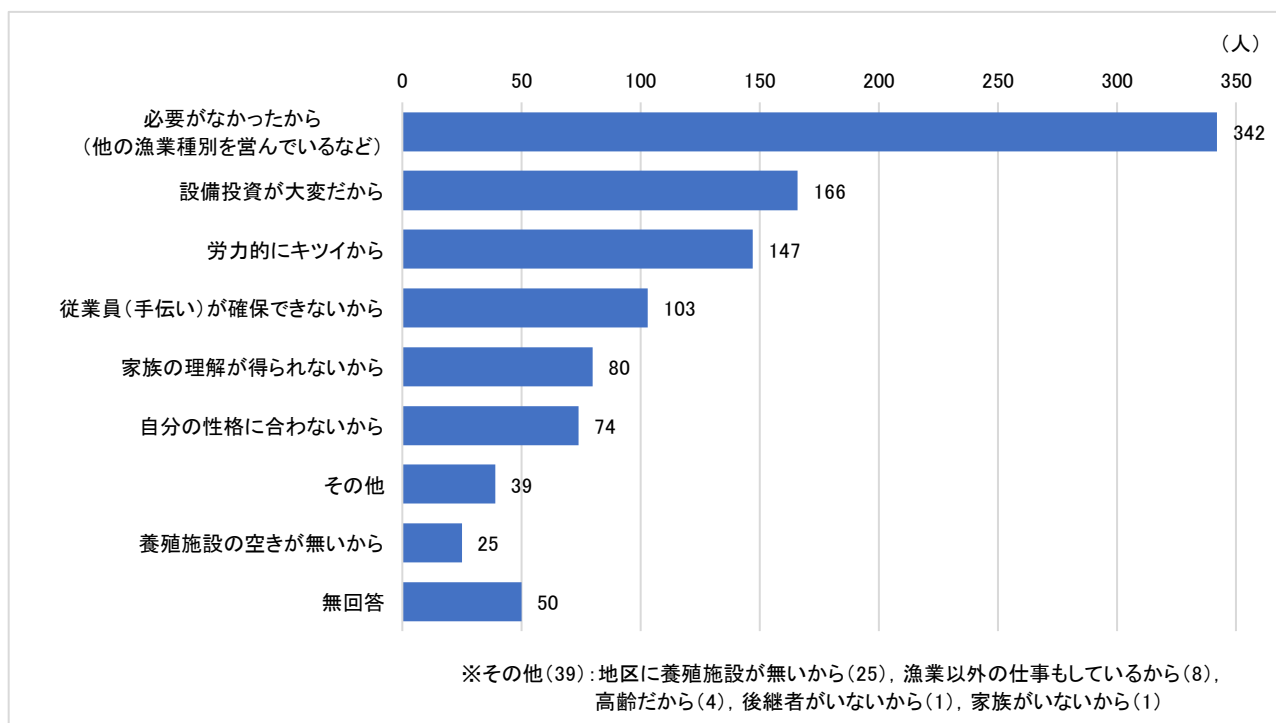
コンブ養殖漁業を営んでいるかでは、「営んでいる」が675人(44.5%)で、漁協別では、南かやべ漁協で「営んでいる」が445人(55.4%)と着業率が最も高い。
 「営んでいない」と回答した696人(45.8%)の、その主な理由については、他の漁業種別を営んでいるなどで「必要がなかったから」が最も多かったほか、「設備投資が大変だから」、「従業員(手伝い)が確保できないから」、「家族の理解が得られないから」との回答も一定数あった。

現在、コンブ養殖漁業を営んでいますか？



【営んでいないと回答した方】

主な理由として当てはまるものに○をつけてください。(2つまで)

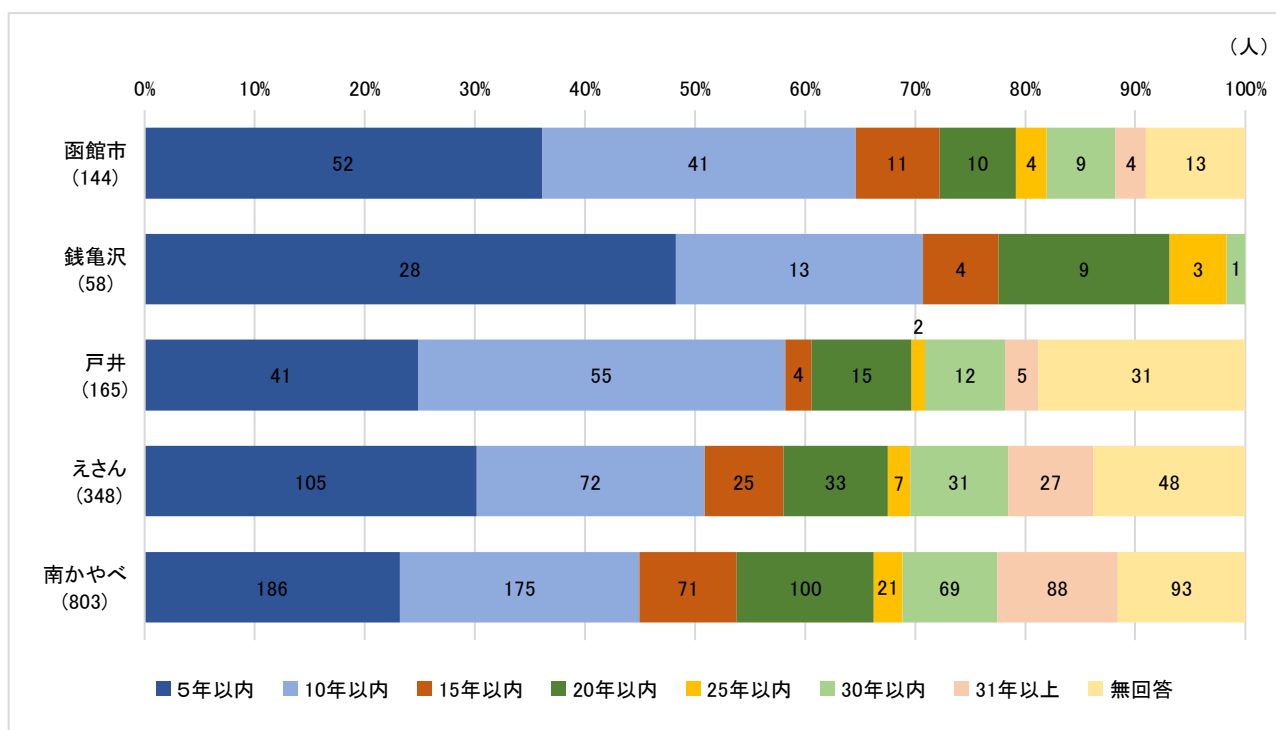
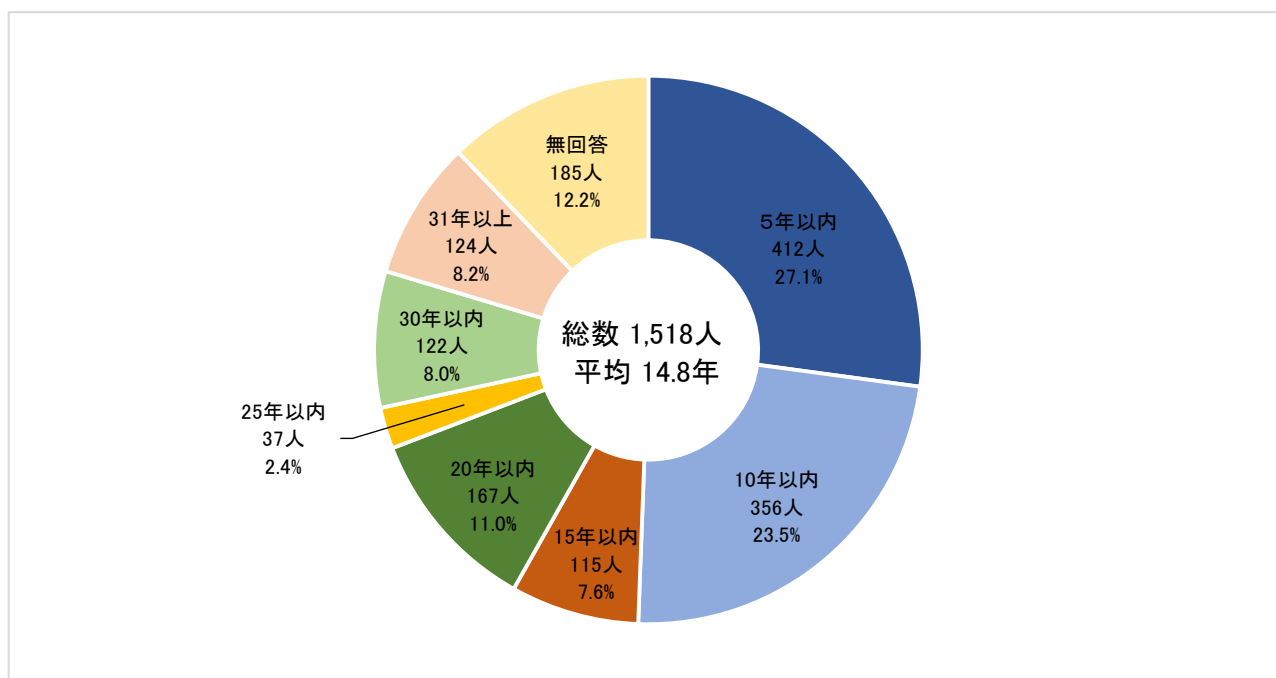


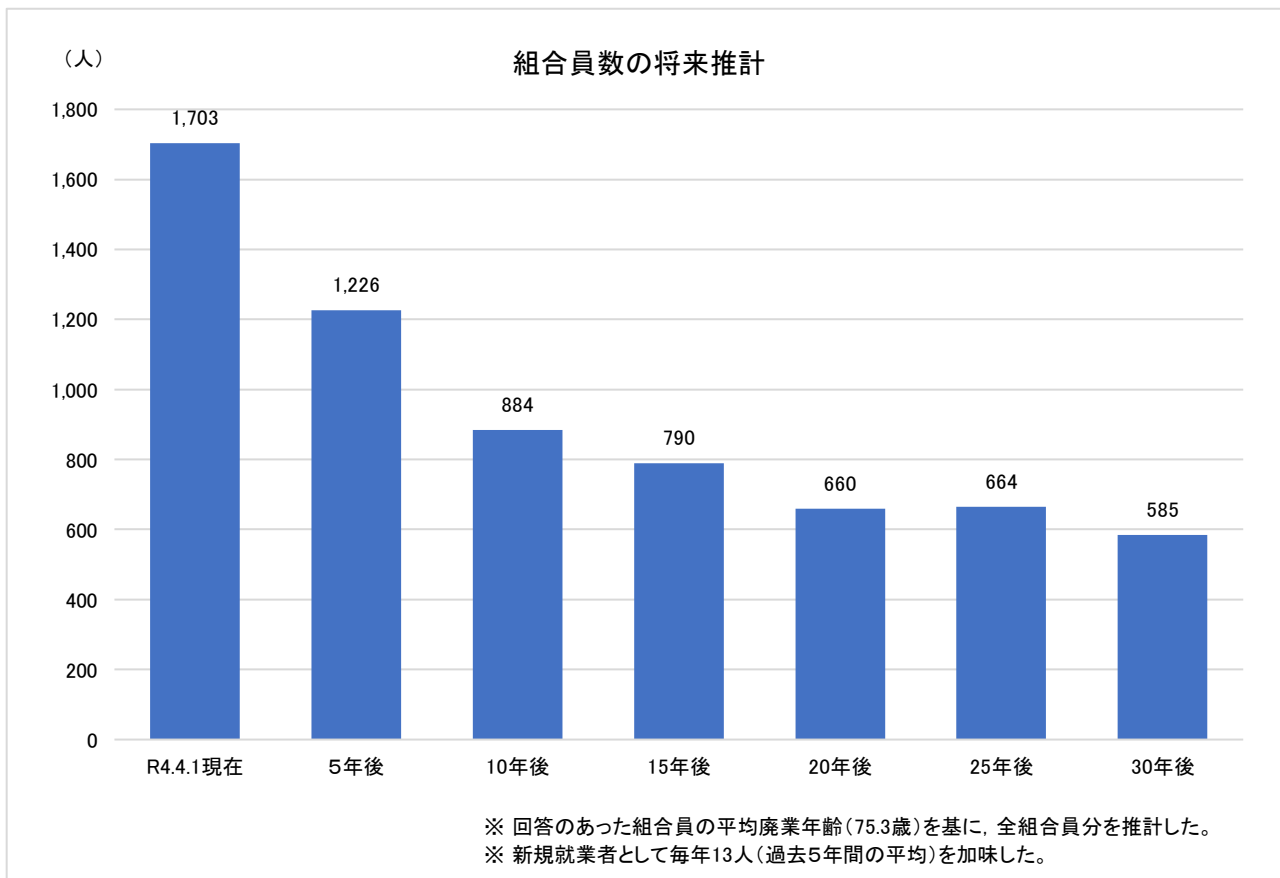
4 今後の漁業経営について

今後、漁業を続ける予定年数について、「5年以内」が412人(27.1%)と最も多く、「10年以内」と合わせると5割を占めている。漁協別では、銭亀沢漁協で10年以内が7割、函館市漁協でも6割を占めている。この回答を基にした全組合員数の将来推計では、10年後には現在の約半数の884人まで減少すると見込まれる。

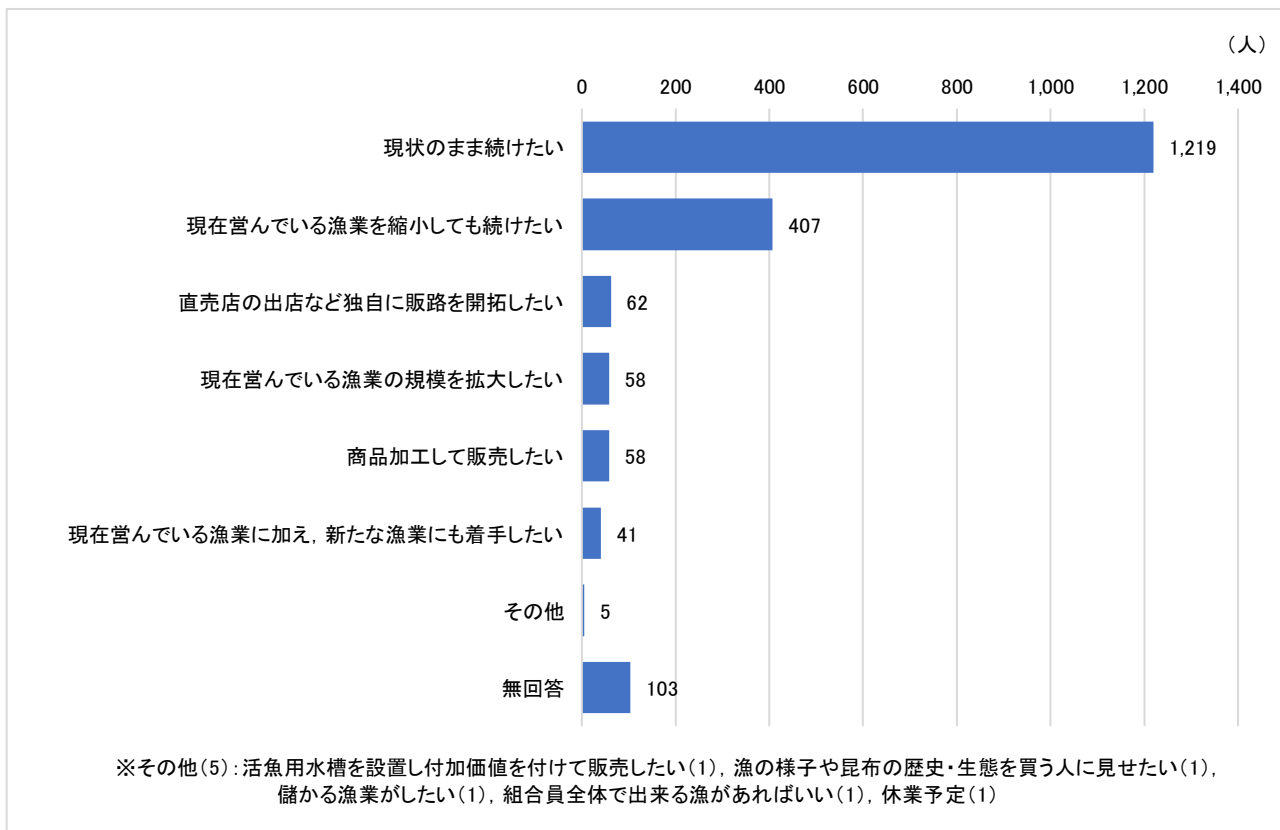
今後の漁業経営をどのようにしていきたいかについては、「現状のまま続けたい」が最も多い一方で、「直売店の出店など新たな販路を拡大したい」や「現在営んでいる漁業の規模を拡大したい」、「現在営んでいる漁業に加え、新たな漁業にも着手したい」も一定数あった。

今後、漁業を続ける予定年数を記入してください。





今後の漁業経営をどのようにしていきたいと思いませんか？（2つまで）



5 後継者について

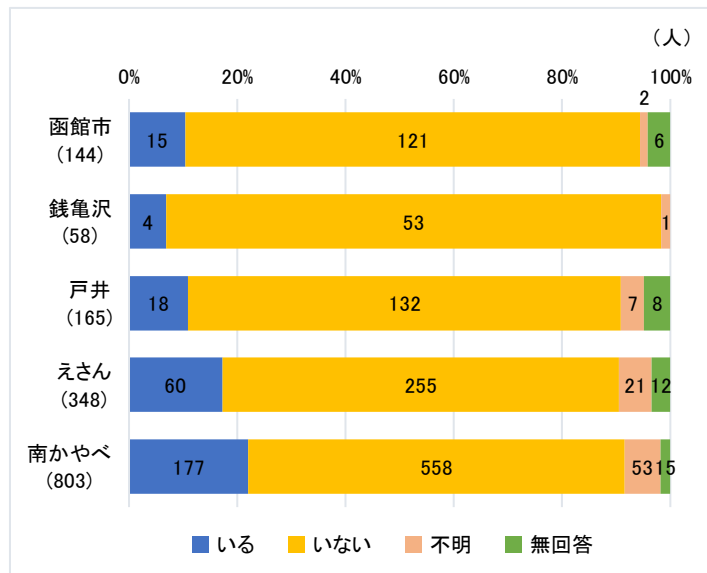
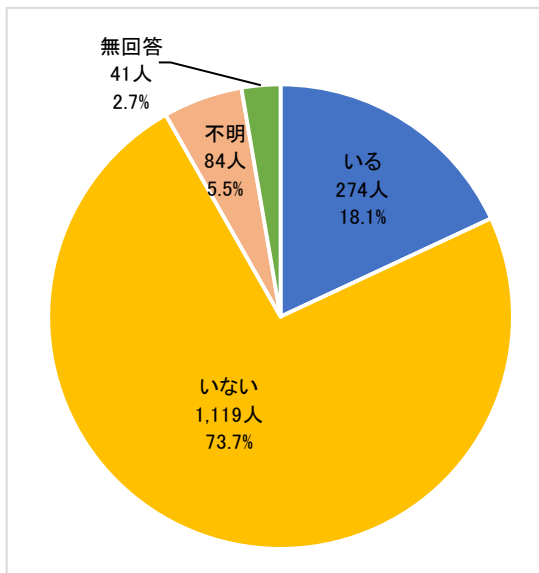
後継者が「いる」との回答は2割弱で、そのうちの8割はすでに「主に漁業に従事している」となっており、いずれもしくは将来漁業を継ぐ見込みであるとの回答はわずか19人となっている。

後継者が「いない」と回答した方の状況については、子や孫はいるが「漁業以外の仕事に就いている（就く予定である）」、「継ぐ意思がない」、「継がせたくない」が合わせて6割以上を占めている。

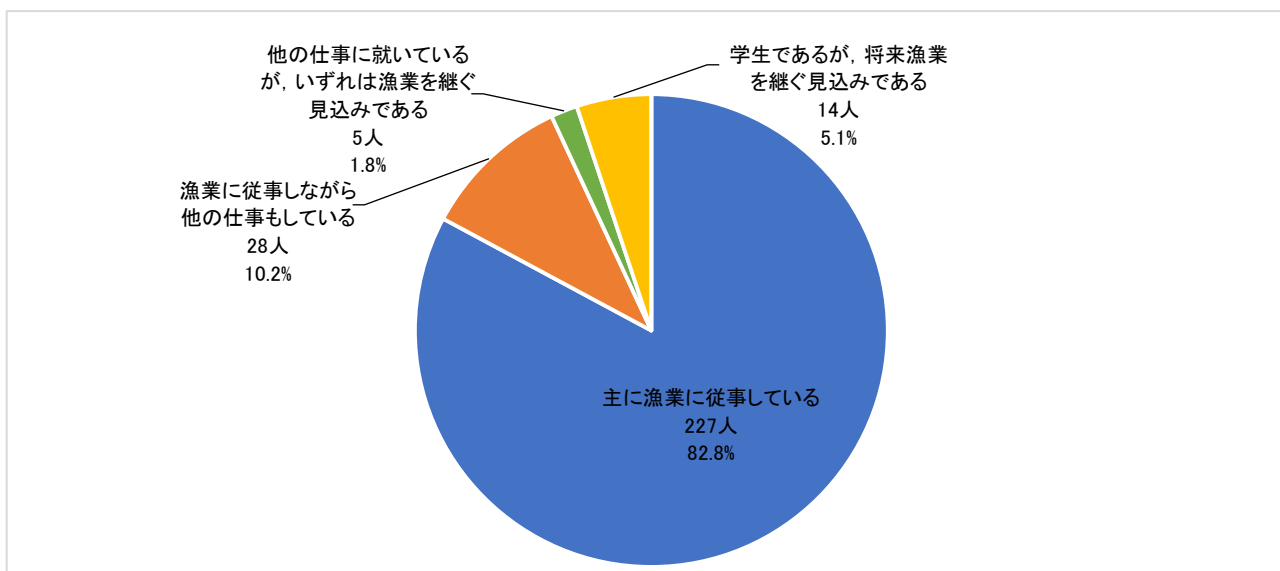
新たに漁業を始めたい人がいれば設備などを譲ってもいいと思うかでは、「有償なら譲ってもよい」、「無償で譲ってもよい」が合わせて約6割を占めている。

漁業者の子どもが漁業を継がない理由については、「収入が不安定だから」が最も多くなっている。

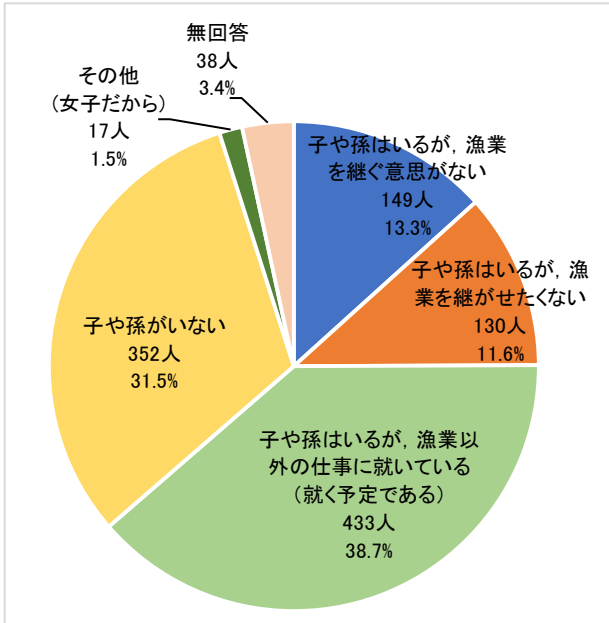
あなたには漁業の後継者はいますか？



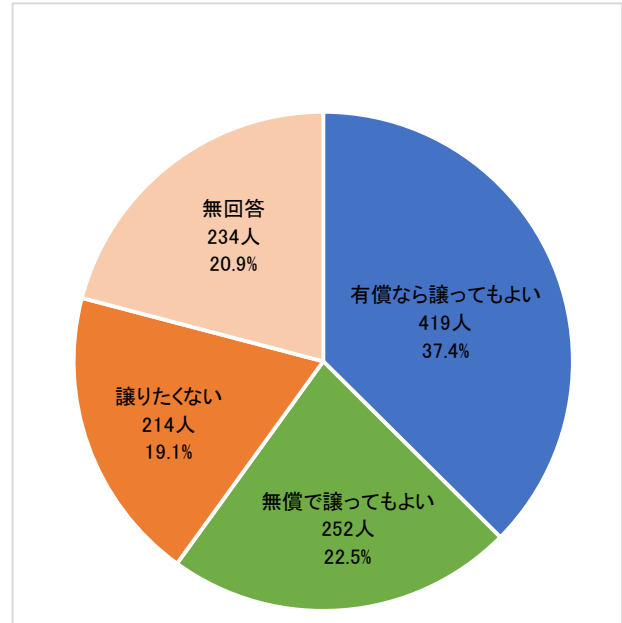
【「いる」と回答した方】 後継者は現在どういう状況ですか？



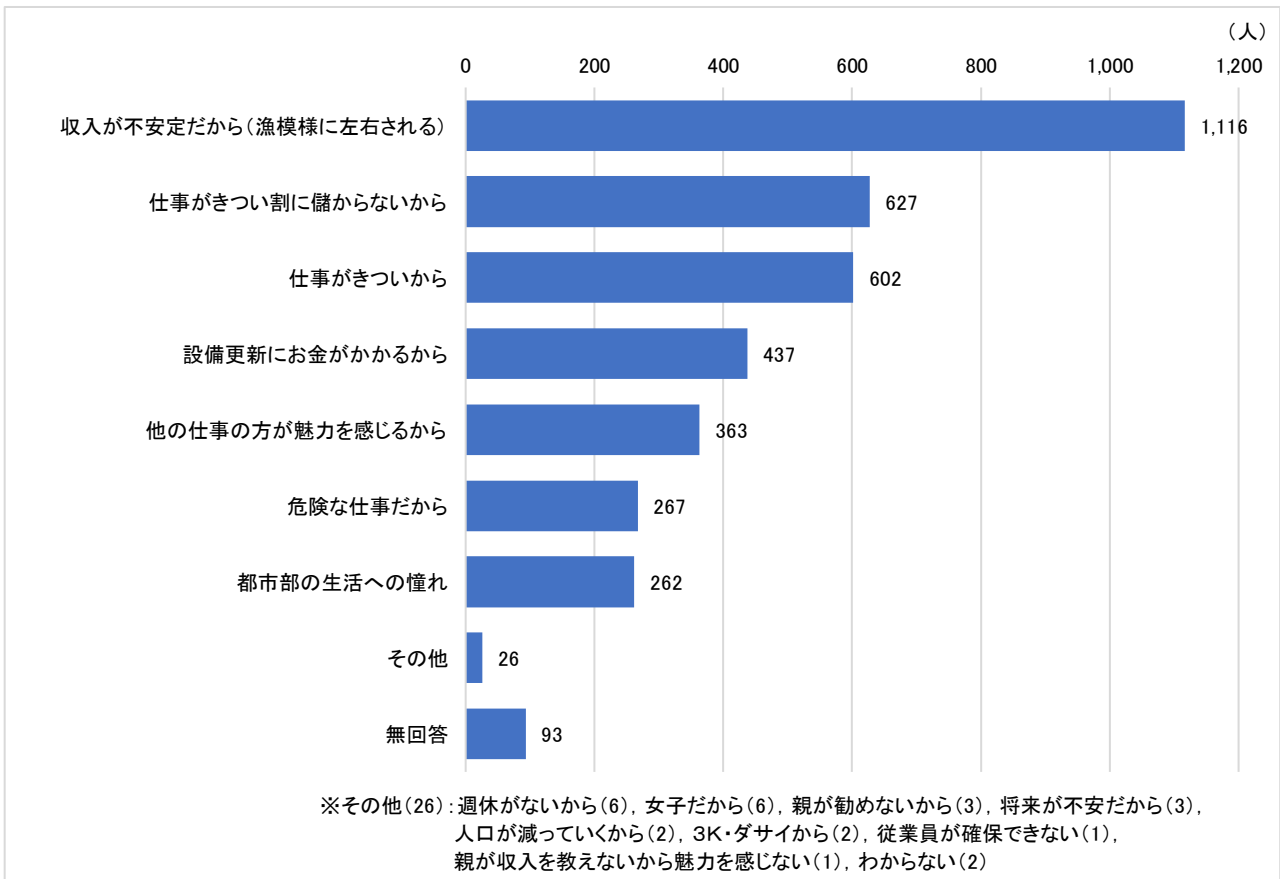
【「いない」と回答した方】
どのような状況ですか？



【「いない」と回答した方】
新たに漁業を始めたい人がいれば設備などを譲ってもいいと思いますか？



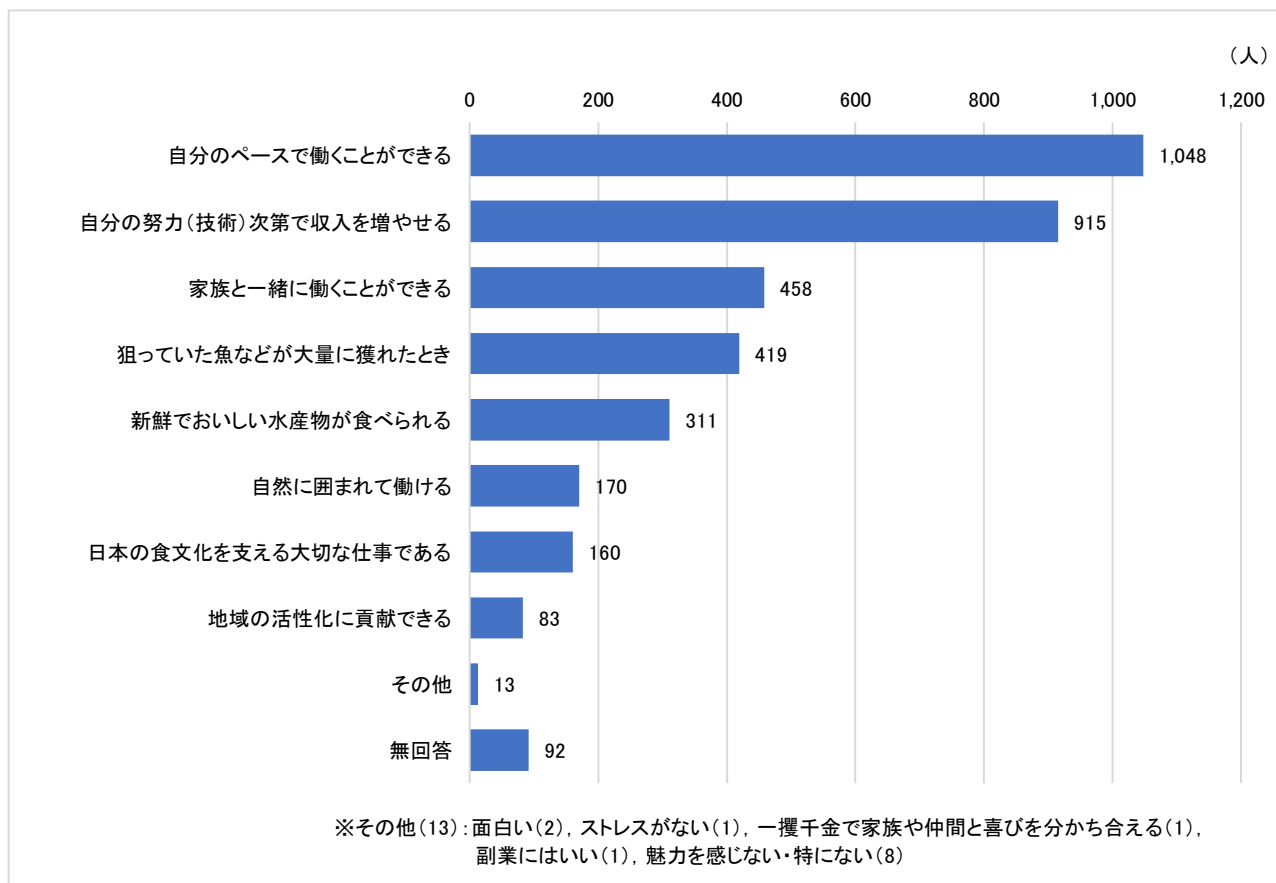
漁業者の子どもが漁業を継がない理由として考えられるものについて○をつけてください。（3つまで）



6 漁業の魅力について

どのようなところにやりがいや魅力を感じるかでは、「自分のペースで働くことができる」が最も多く、次いで「自分の努力(技術)次第で収入を増やせる」となっている。

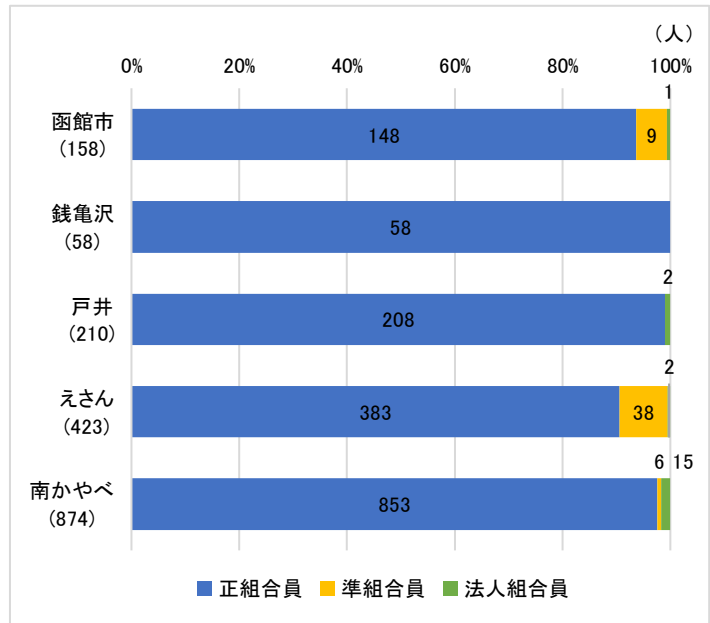
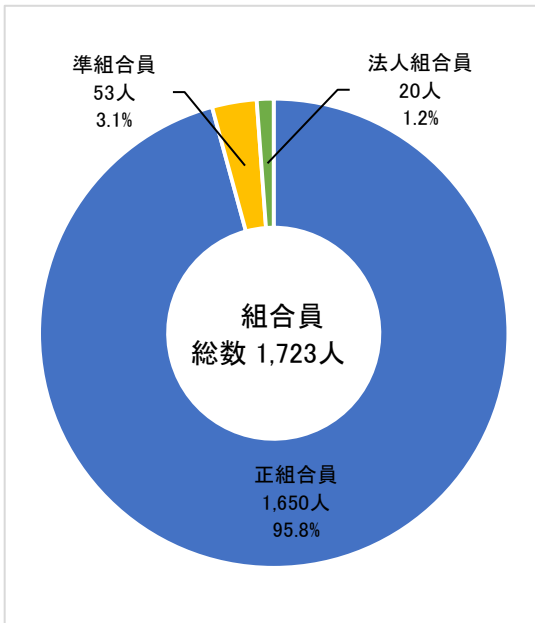
漁業に携わるうえで、どのようなところにやりがいや魅力を感じますか？（3つまで）



■ 漁協聞き取り調査

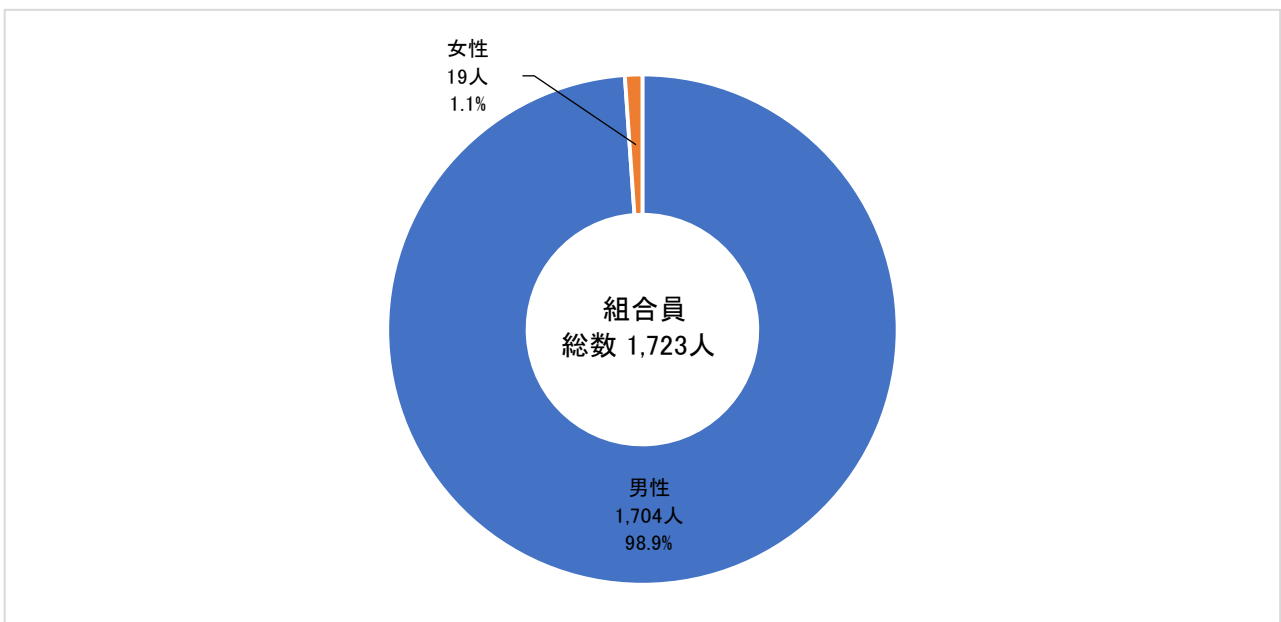
組合員の種別

組合員1,723人のうち、正組合員は1,650人で全体の95.8%を占め、法人組合員は20人で1.2%となっている。



組合員の性別

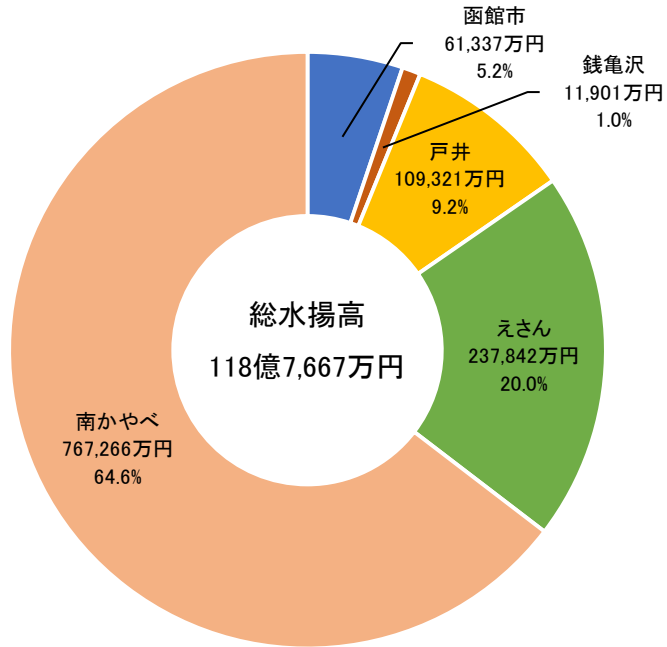
組合員(法人は代表者)の性別は、男性が1,704人(98.9%), 女性は19人(1.1%)となっている。



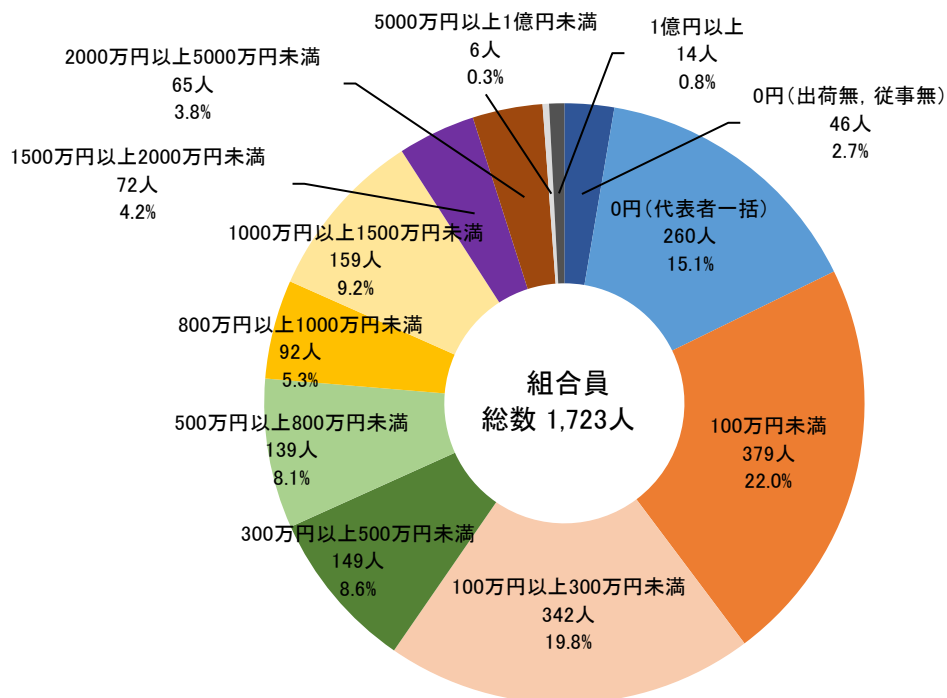
水揚高

令和3年の組合員総水揚高(漁協自営定置は除く)は118億7,667万円となっており,うち南かやべ漁協が76億7,266万円(64.6%)を占めている。

水揚高別では,300万円未満が721人で全体の約4割を占めている。一方で,1,000万円以上が316人(18.3%)となっている。



水揚高別組合員数



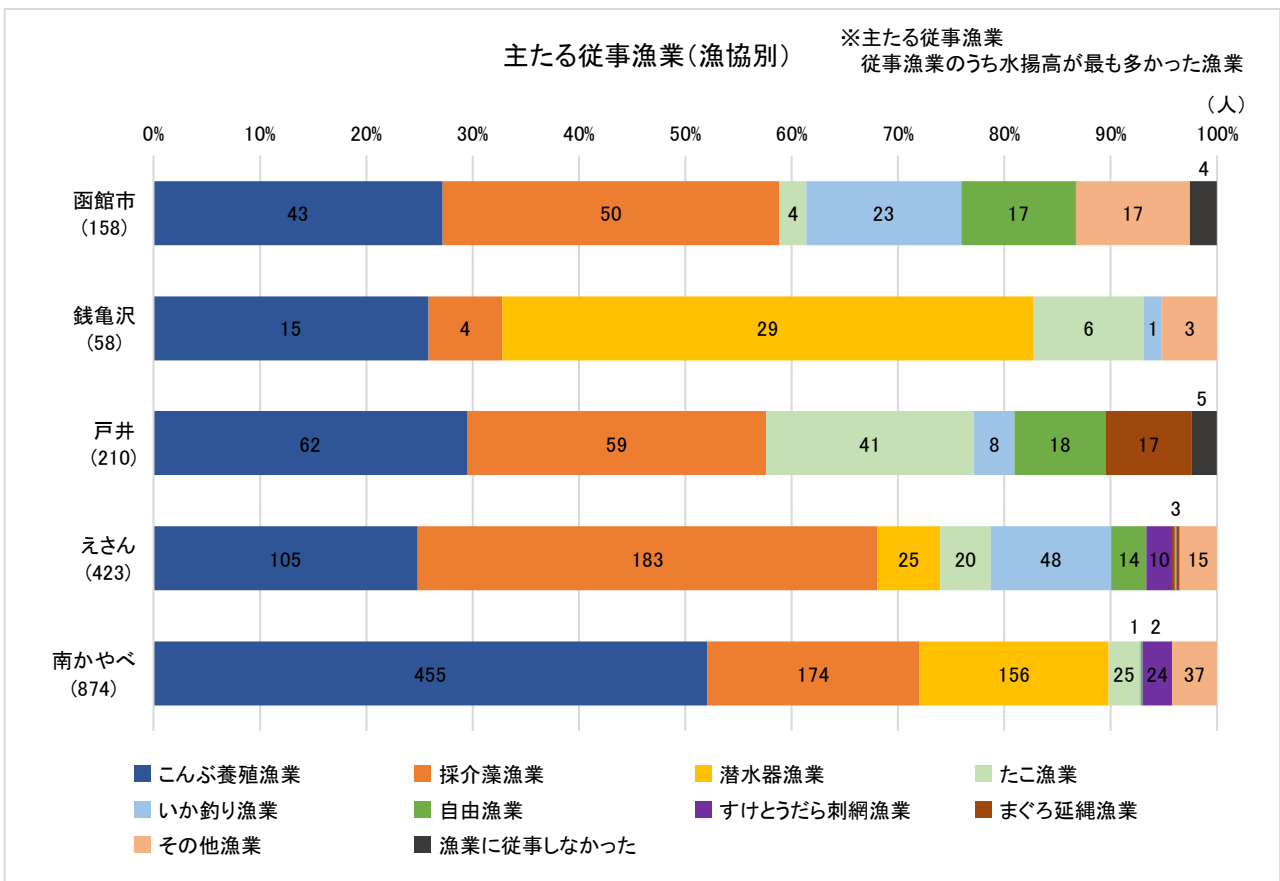
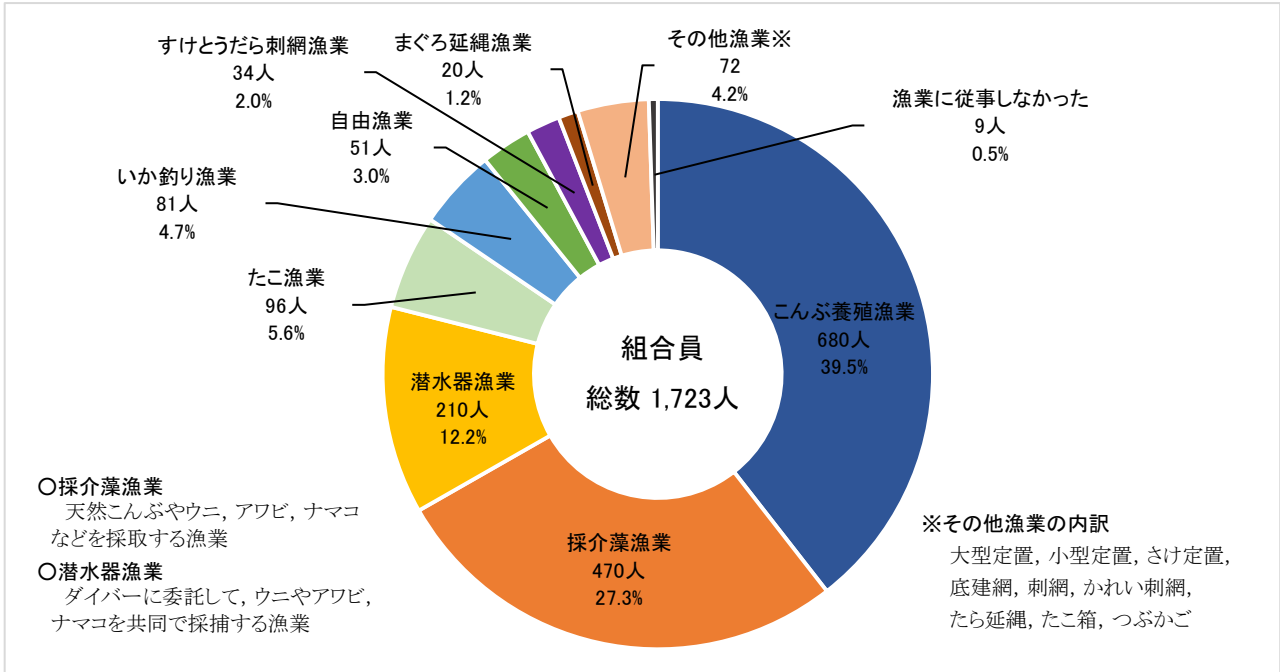
従事漁業

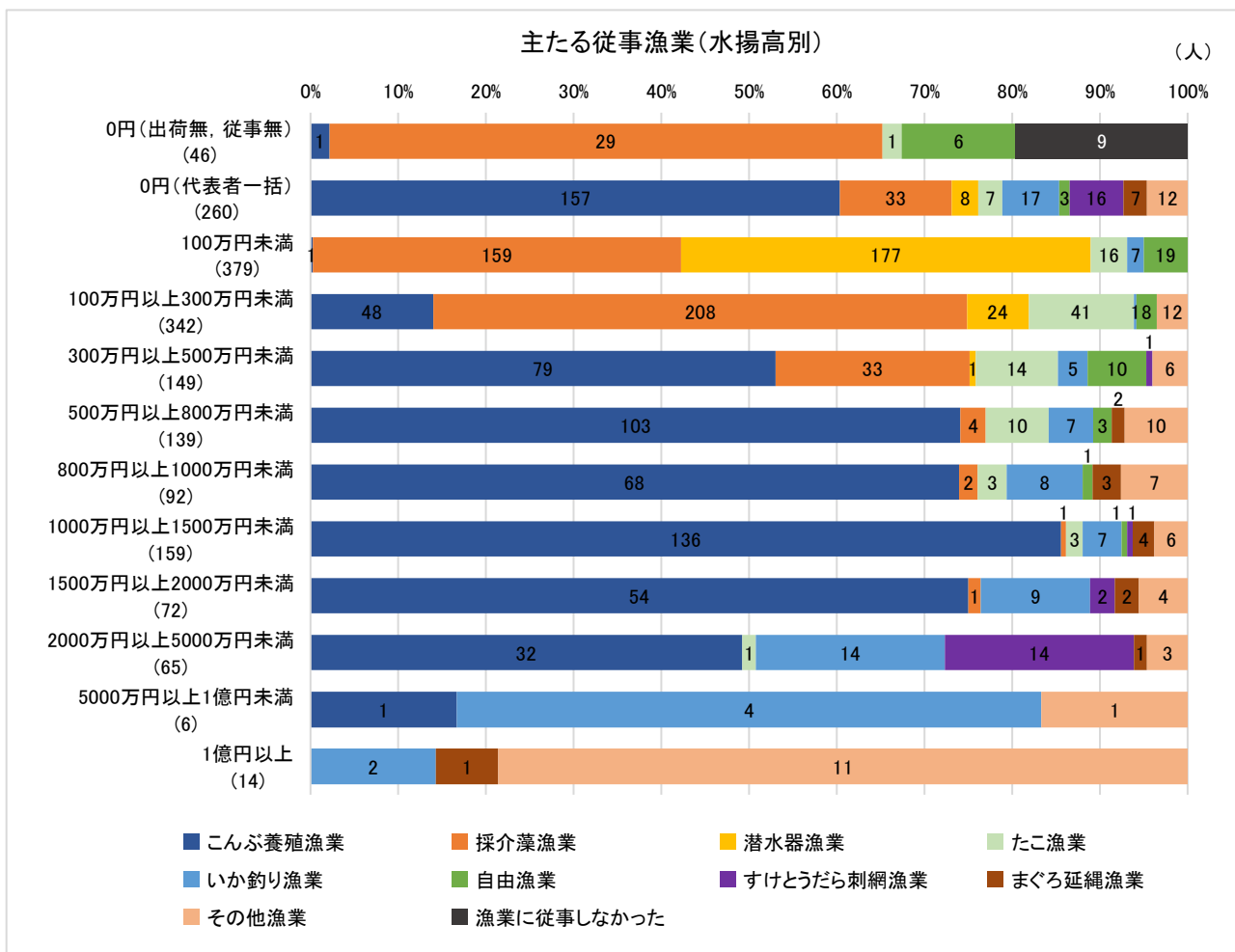
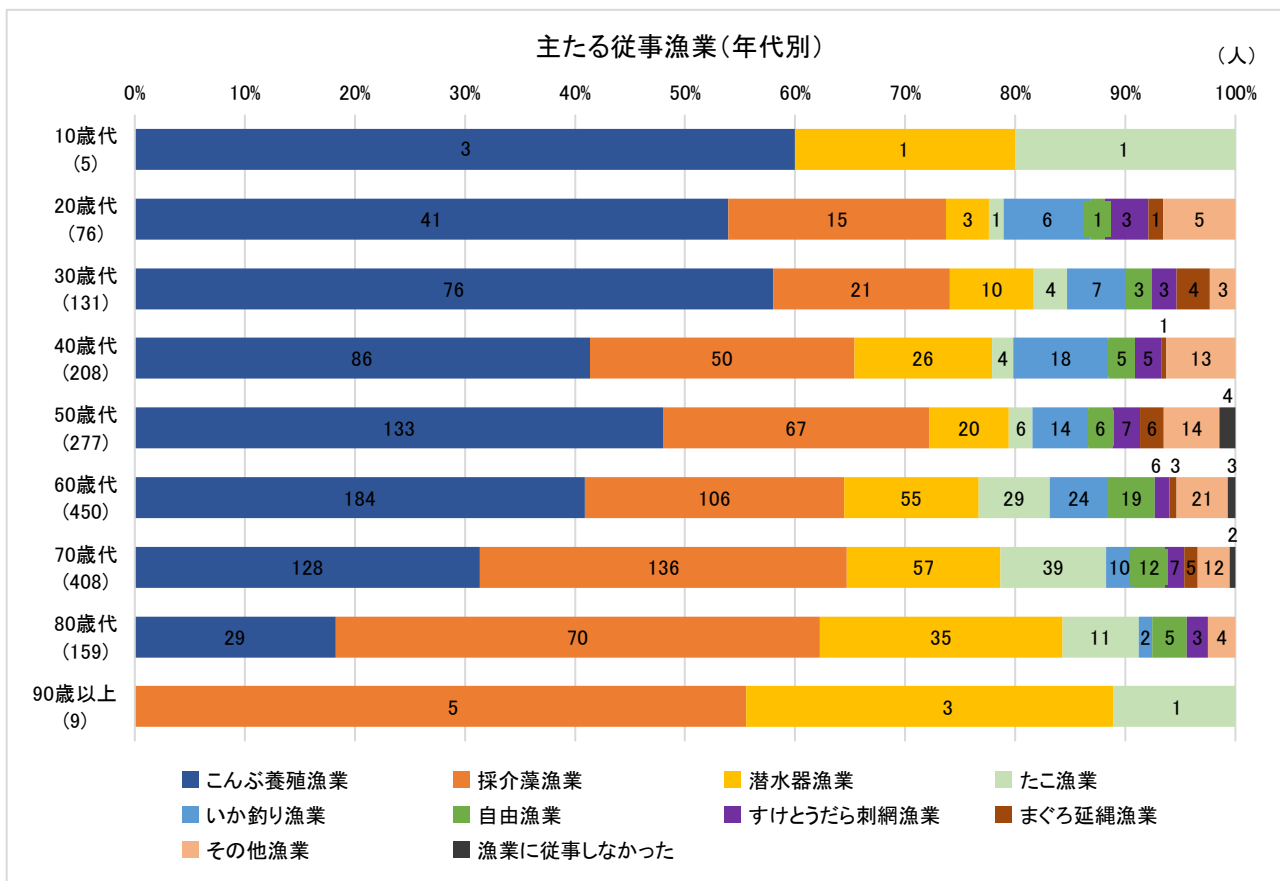
主たる従事漁業(従事漁業のうち水揚高が最も多かった漁業)は、「こんぶ養殖漁業」が約4割、「採介藻漁業」が約3割を占めている。

漁協別では、南かやべ漁協で「こんぶ養殖漁業」が50%以上を占めている。

年代別では、年代が高くなるにつれ「採介藻漁業」と「潜水器漁業」の従事割合が高くなっている。

漁業種類別では、300万円未満で「採介藻漁業」と「潜水器漁業」の割合が高く、300万円以上では「こんぶ養殖漁業」や「いか釣り漁業」などの割合が高くなっている。

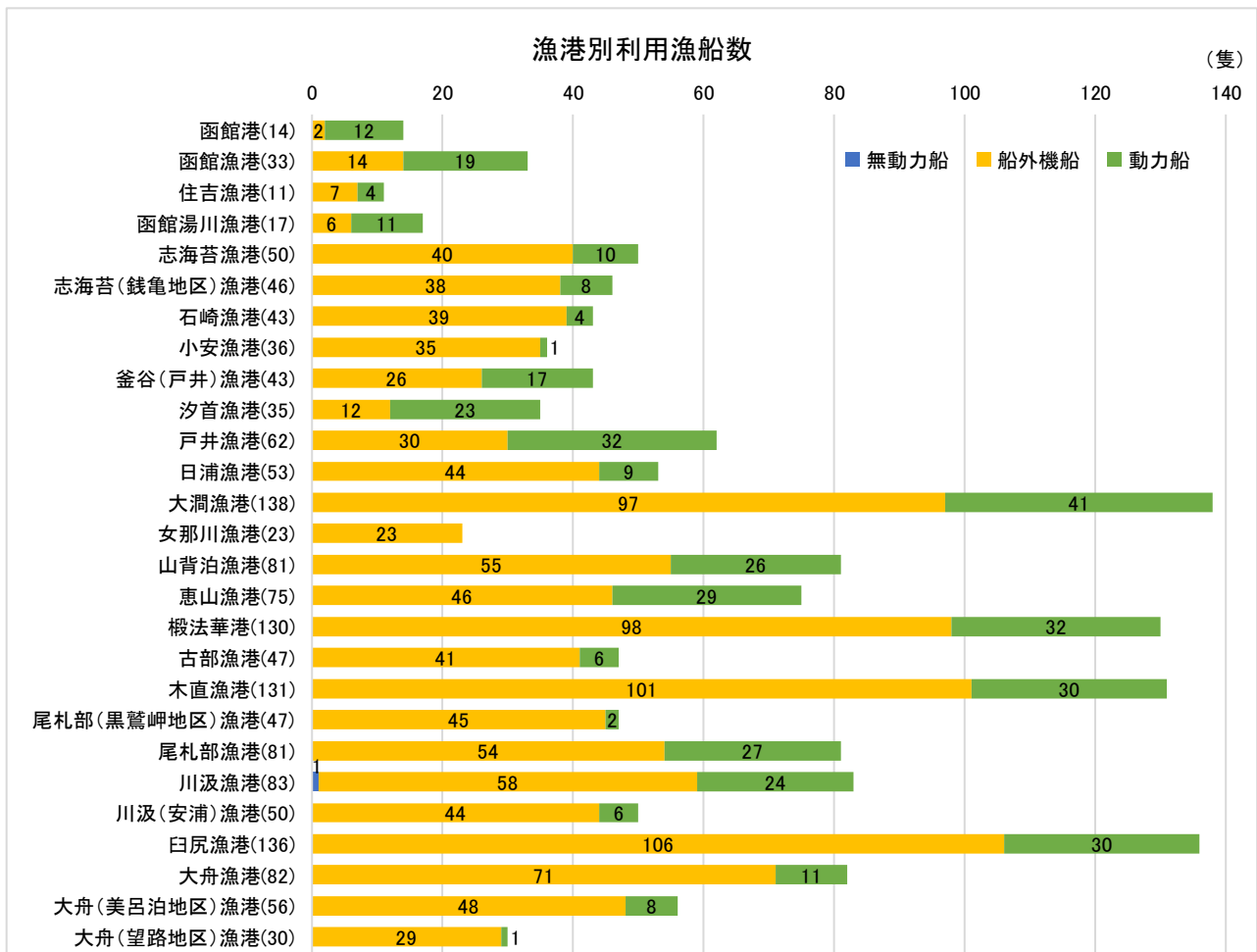
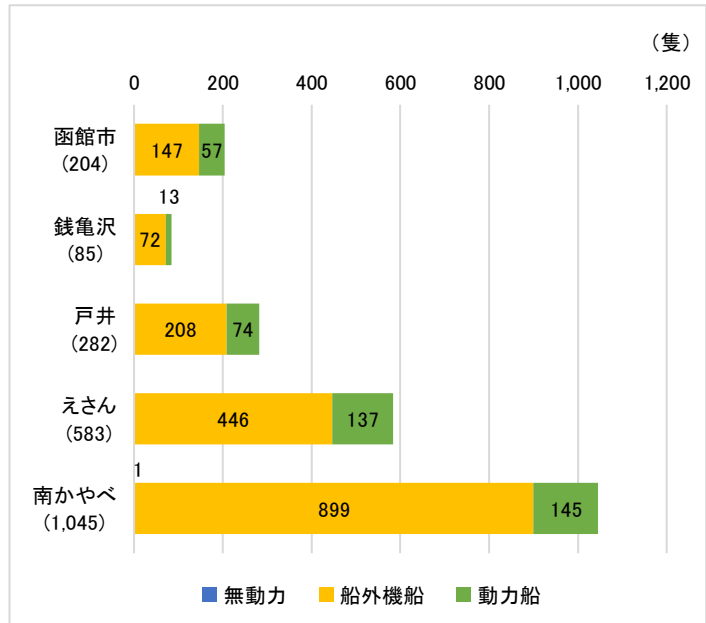
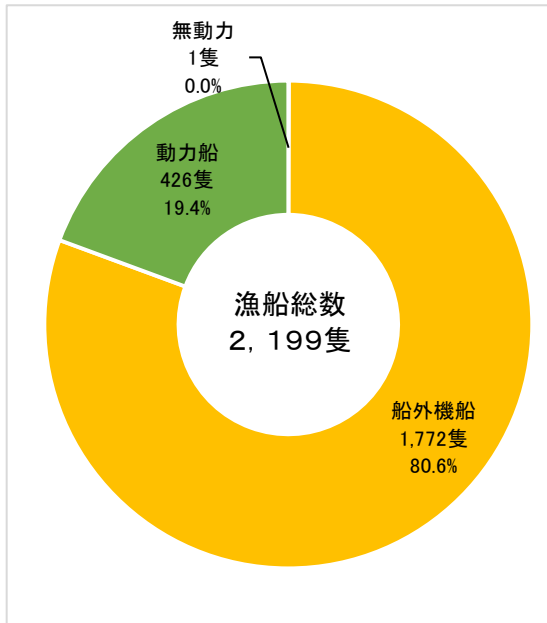


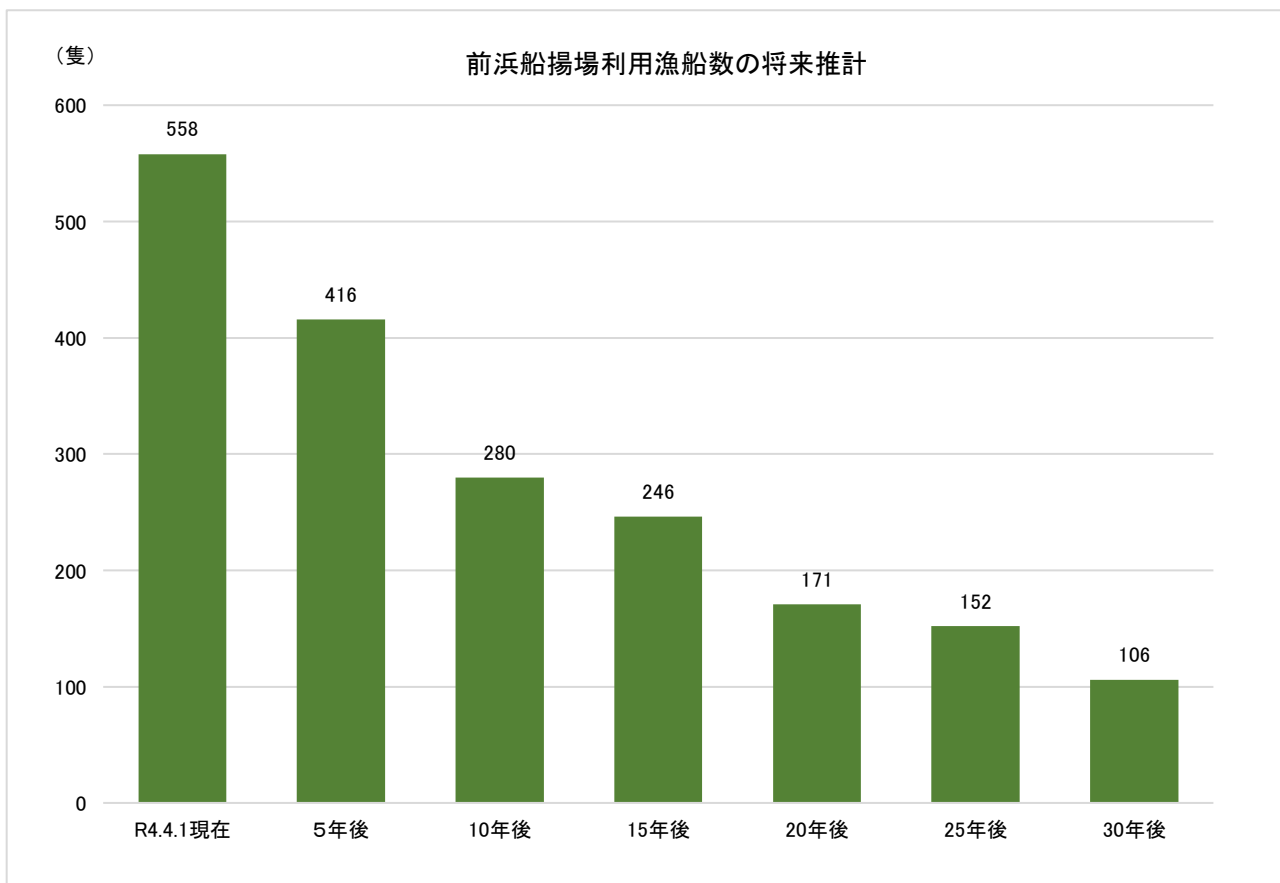
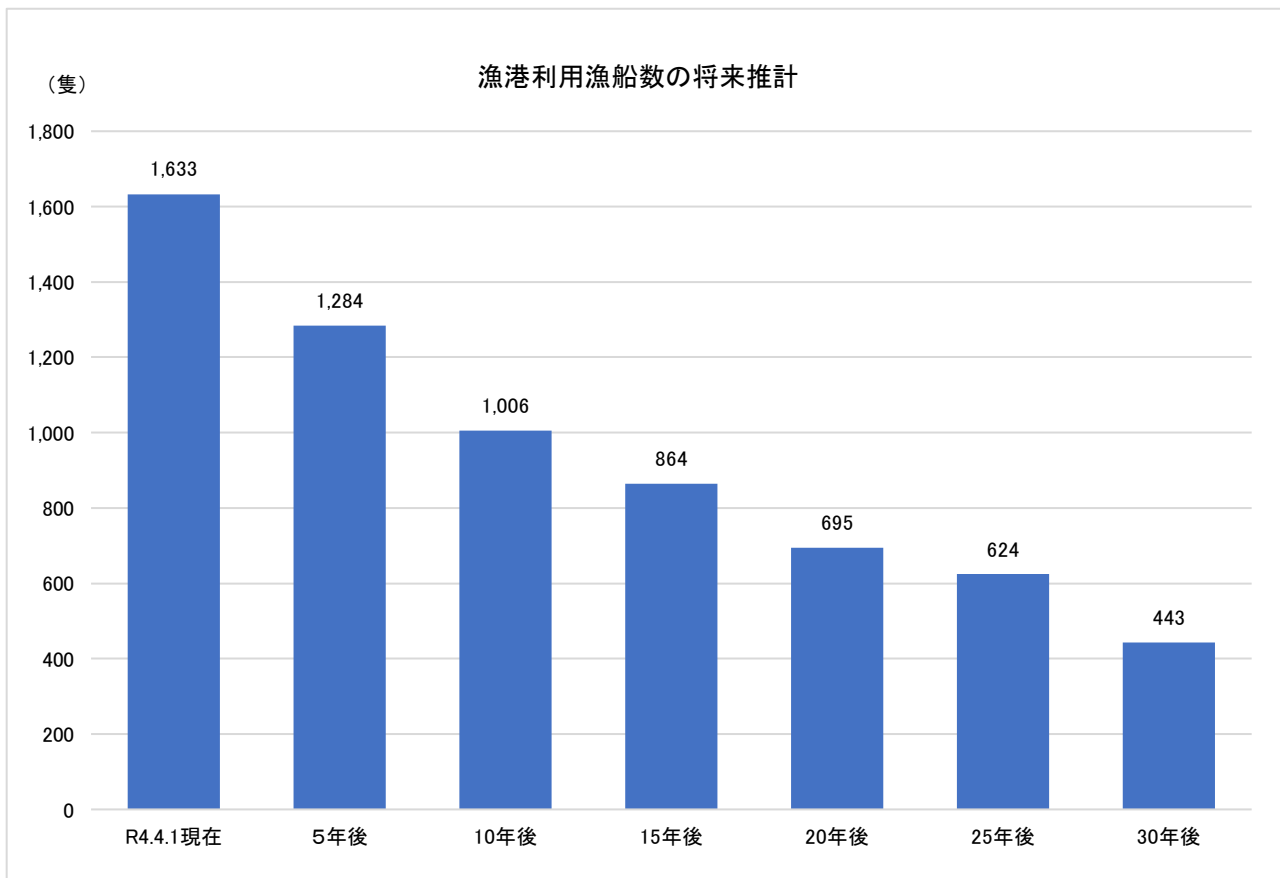


所有漁船、漁港・前浜船揚場利用

漁船数は全体で2,199隻で、うち80.6%は船外機船となっている。これらの漁船は重要港湾(函館港), 地方港湾(榎法華港), 漁港(本港20港, 分港5)および約600箇所の前浜船揚場(斜路)を利用しており, 大潤漁港が最も多い138隻, 住吉漁港は最も少ない11隻となっている。

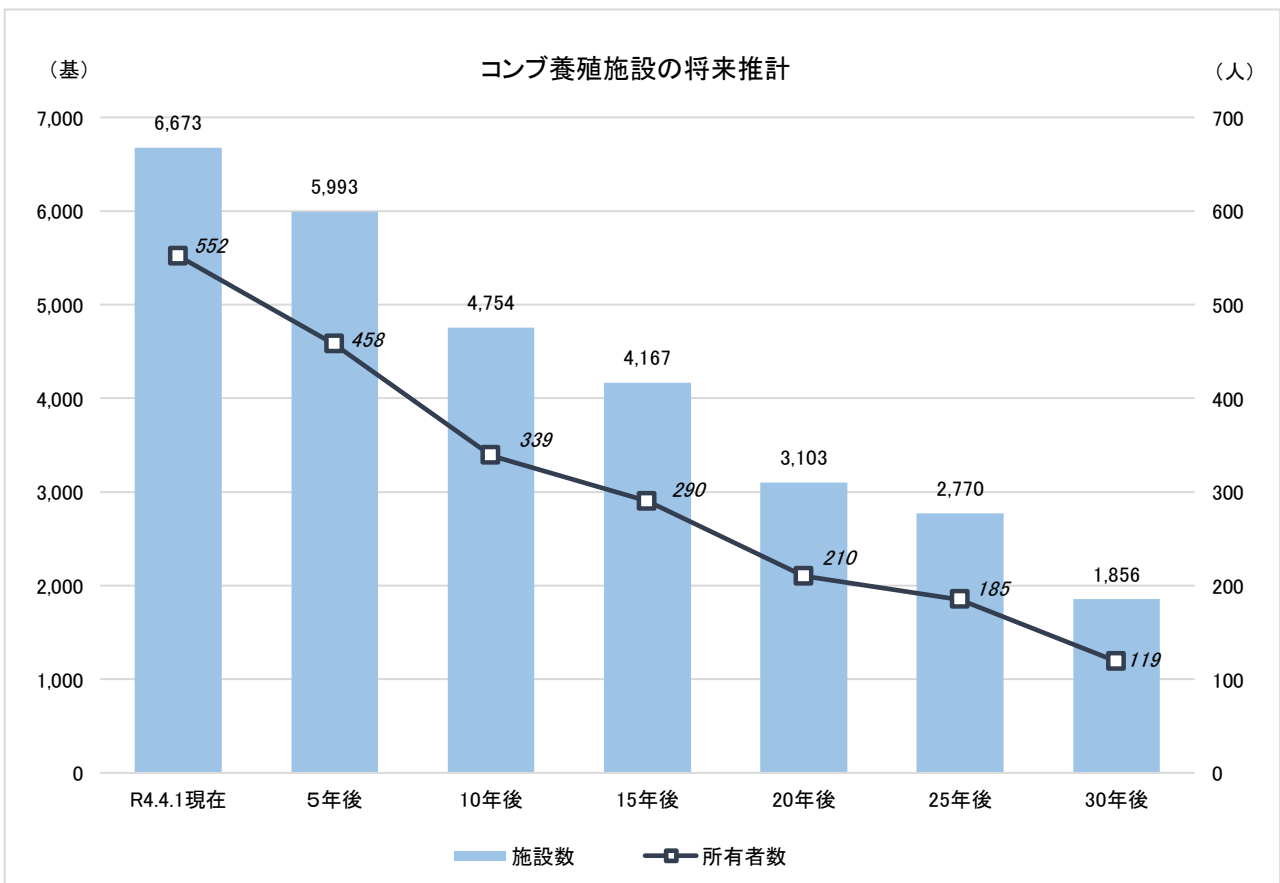
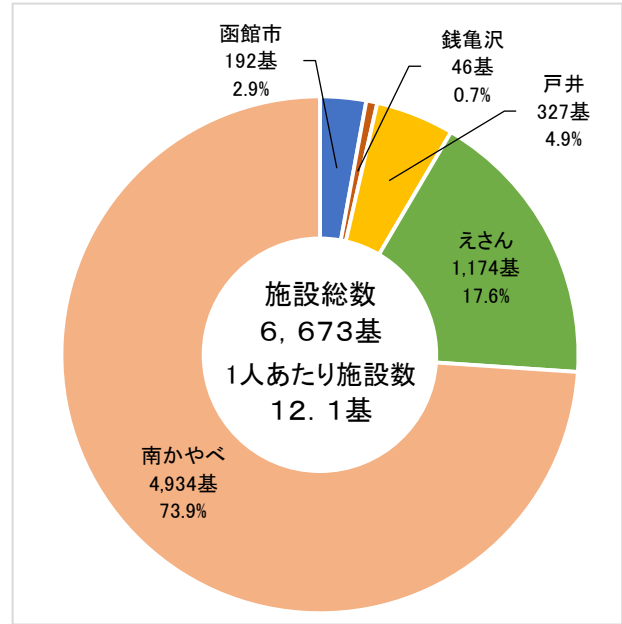
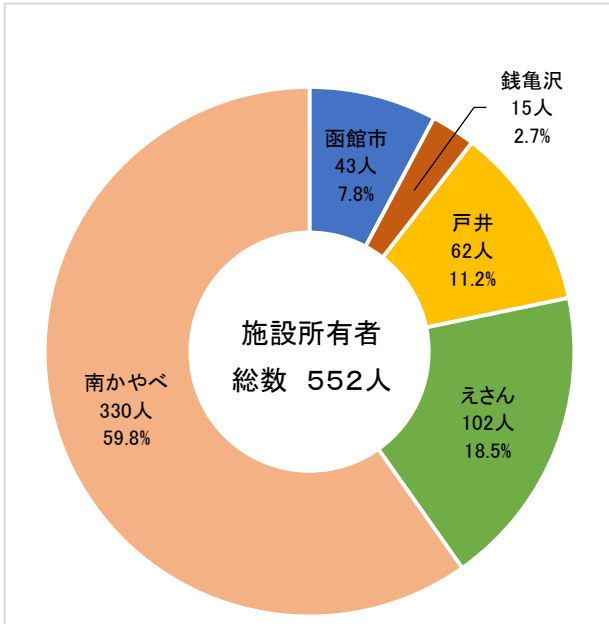
将来推計では, 漁港を利用する漁船数は10年後には現在の約6割まで減少し, 前浜船揚場を利用する漁船数は10年後には現在の半数まで減少すると見込まれる。





コンブ養殖施設

コンブ養殖施設の所有者数は総数552人、施設総数6,673基で、1人あたり平均で12.1基となっている。漁協別では、南かやべ漁協が所有者数330人(59.8%)、施設数4,934基(73.9%)を占めている。養殖施設の将来推計では、10年後には施設所有者が339人(△213人)、施設総数が4,754基(△1,919基)まで減少すると見込まれる。



行政に対する支援や要望等

- ・ 天然漁場の回復のため、投石事業を実施してほしい。
- ・ 砂の移動で天然コンブが採れなくなった。磯が砂に埋もれて、のりやふのりも採れなくなるので、前浜の砂を除去してほしい。
- ・ 天然コンブの繁茂状態が非常に悪い。この原因を調査してほしい。
- ・ 設備投資へ補助を充実(拡充)してほしい(漁船, 船外機, 倉庫建設など)
- ・ せっかく漁をしてきても魚価が安く、燃料費の方が高いため、出れば出るほど赤字になってしまう現状を何とかして欲しい。
- ・ コロナの影響で魚が獲れても安いので、行政には少しでも援助していただいて漁師を続けていけるようにしてほしい。
- ・ 高齢者, 少人数でも経営を続けられるように支援をお願いしたい。
- ・ 時化などで施設に被害があっても補償がない。しっかりした補償がなければ子供に跡を継がせられない。
- ・ 魚などをもっと高く買って欲しい。
- ・ 人件費, 燃料費が値上がりする中, コンブ, ウニ, ナマコなどの価格も上がることを期待している。
- ・ 昆布を取り扱う業者が増えて欲しい。
- ・ 養殖コンブで生活をしているが, 毎年の繁忙期には人員を確保できずにとっても困っている。
- ・ 高齢で後継者がおらず, 日本の食文化である昆布を作る人がいなくなる。行政と漁業者などが協力して後継者対策を行うべきと思う。
- ・ 漁業がやりたい人には協力を惜しまないので, そういう方とめぐり会いたい。
- ・ 漁業者本人が後継者や水産資源問題などを広く理解してこれからを考える必要がある。経営者意識を高めるべき。
- ・ 漁港を整備してほしい。(クレーンの設置, 外灯の増設, 越波対策)
- ・ 船揚げ場を安全に出入りできるようにしてほしい。
- ・ TACによる規制が厳しすぎて魚が獲れない。規制緩和してもっと獲れるようにしてほしい。
- ・ 密漁や規制違反等を厳しく取り締まってほしい。
- ・ 鮮魚であれば函館市場中心に出荷するだけでなく, 全国の市場やウェブ等で販売できるよう販路拡大や新規開拓をしてほしい。
- ・ 休日がないのが一番問題である。定置も養殖漁家も週1日は休みを取っている。組合がそういうことを決めればよいと思う。
- ・ 自然に左右されない陸上養殖ができれば, 高齢になっても漁業が続けられると思う。
- ・ ナマコの種苗育成に力を入れ, 資源量・漁獲高の安定を望む。
- ・ 魚を身近に感じて食べてもらえるような取り組みをしてほしい。
- ・ コンブ養殖の新たな可能性としてブルーカーボンの研究を推進してほしい。
- ・ 近年の異常気象や海洋変化に対応する調査研究をお願いしたい。
- ・ 行政は加工, 冷蔵, 流通にもう少し関わるようにして下さい。

現状と課題

<アンケート調査から>

- 本市の漁業協同組合の組合員（個人）は、市町村合併時の平成17年（2005年）には2,698人であったものが、令和4年（2022年）4月1日時点では1,703人と37%減少し、平均年齢については60.7歳と高齢化が進んでおり、70歳を超えている漁業協同組合もある。
- 「今後、漁業を続ける予定年数」と「後継者はいるか」との設問の結果を反映させた組合員数の将来推計では、10年後の組合員数は884人まで減少すると見込まれており、漁業就業者の確保に向けた対策が急務となっている。
- また、漁業経営上の課題としては、「魚やコンブなどの水揚げが減っている」ことや「価格が安い」といった意見に次いで、「後継者がいない」ことや「従業員（手伝い）が確保できない」といった意見も多くあり、このことは、全漁家の約半数の方が携わっているコンブ養殖漁業において顕著に現れており、地域の高齢化や人口減少に伴い労働力不足が生じ、廃業せざるを得ない漁業者も出てきている。
- 漁業後継者については、現在、学生や他の仕事に就いている方などで、将来的に漁業を継ぐ見込みがあるのは僅か19人となっており、漁業者の子どもだけで後継者を確保することは難しい状況となっている。一方で、「自分のペースで働くことができる」ことや「自分の努力次第で収入を増やせる」と言ったことにやりがいや魅力を感じていると言った意見も多く見られたことから、後継者確保に向けて、そうした魅力を広くアピールする取り組みが必要である。

なお、新たに漁業を始めたい人がいれば、有償・無償合わせて6割の方が設備を譲ってもいいと考えており、将来の新規就業者確保の取り組みに活用できるものと考ええる。

<漁協聞き取り調査から>

- 組合員の総水揚げ高（漁協自営定置を除く）は、平成17年（2005年）には約178億円であったものが、令和3年（2021年）では約119億円と33%減少しており、今後もこうした傾向が続くものと推測される。

なかでも、主要な水産物である天然コンブについては、近年、海洋環境の変化等により資源量が大幅に減少し、「採介藻漁業」を中心に生計を立てている組合員の水揚げ金額が低迷する要因となっているほか、天然コンブから種苗を生産する養殖コンブの生産への影響も懸念されており、早急なコンブ資源の回復が望まれている。

- 収入の状況を分析すると、定置網漁業やイカ釣り漁業、コンブ養殖漁業などの就業者で水揚高が1,000万円を超える方が316人(18.3%)いる一方で、100万円に満たない方は379人(22.0%)と最も多くなっているが、大多数は、高齢で天然コンブやウニ、アワビなどを採取する採介藻漁業を営む方であり、今後も高齢漁業者の増加が見込まれることから、こうした漁業形態にある方々の水揚につながるような取り組みも重要となっている。
- 漁船数は動力船、船外機船合わせて2,199隻あり、これらは函館港や楸法華港のほか、25の漁港と約600箇所の前浜船揚場(斜路)を利用しているが、将来推計では、漁港を利用する漁船数は10年後に約6割まで減少し、船揚場を利用する漁船数においても半数程度まで減少すると見込まれており、こうした状況に向けた対策が必要となっている。
- コンブ養殖施設の所有者は552人で、施設総数6,673基、1人あたり平均で12.1基となっているが、将来推計では、10年後の施設所有者は339人、施設総数は4,754基と約2,000基減少すると見込まれており、将来を見通した対策が必要となっている。
- また、自由記載では、天然コンブの繁茂対策についての要望や養殖コンブについて、繁忙期の人員確保が難しいといったことや、後継者対策の要望のほか、自然に左右されず高齢になっても漁業が続けられよう陸上養殖へ期待する声など多岐にわたるものであり、こうした漁業者の意見について、対策を検討するための協議の場が必要である。

以上のことなどを踏まえ、課題を大きく5点としてとりまとめた。

- ・ 漁業就業者の確保
- ・ 天然コンブの資源回復
- ・ 漁業所得の向上
- ・ 高齢漁業者の収入確保
- ・ 海面・漁港などの有効活用

今後の対策

課題の解決に向けて、次のとおり取り組むこととする。

○漁業就業者の確保に向けた対策

- ・漁業就業体験などの機会の提供
- ・必要な資格取得や技術習得，漁船等の取得費用に対する支援の検討
- ・経営が不安定な期間を支援する制度の検討 など

○天然コンブの資源回復に向けた対策

- ・天然コンブの繁茂対策とブルーカーボンの取り組みの推進
- ・天然コンブなどの藻場回復に向けた取り組みの強化 など

○漁業所得向上に向けた対策

- ・キングサーモンの完全養殖技術の研究
- ・コンブの完全養殖技術の研究
- ・ウニ、アワビ、ナマコなどの養殖の可能性の検討
- ・ウニの蓄養試験に向けた取り組みの検討
- ・スマート水産業の導入などによる作業の効率化の検討 など

○高齢漁業者の収入確保対策

- ・ウニの蓄養試験に向けた取り組みの検討（再掲）

○海面・漁港などの有効活用対策

- ・コンブ養殖漁業の経営規模拡大や空き海面の有効活用の検討
- ・漁港内の静穏域を生かした養殖事業の展開や用地の利活用の検討

○その他

- ・課題解決に向けて市と漁業協同組合など関係機関で構成する検討会議の設置

漁業就業実態調査アンケート票

1 あなた自身のことについて

① 4月1日時点の年齢を記入してください。 歳

② 4月1日時点のあなたを含めた世帯員の人数を記入してください。
(例)本人,妻,子2人→4人 ※法人は記入不要 人

②-2 そのうち、あなた以外に組合員は何人いますか？ 人

③ 昨年1年間（令和3年1月～12月）に漁業以外の仕事をしましたか？

- (1) 漁業のみ
 (2) 漁業以外の仕事もした（具体的に： _____）
 (例)出稼ぎ、運転手など

④ 漁業の前に他の仕事に就いたことがありますか？

- (1) 他の仕事に就いたことはない
 (2) 他の仕事に就いていた

→ その仕事を辞めて漁業に就いた理由は何ですか？

当てはまるもの1つに○をつけてください。

- (1) 漁業を継ぐため
 (2) 地元に戻りたかったから
 (3) 仕事や生活が合わなかったから
 (4) 漁業に興味があったから
 (5) その他（具体的に： _____）

2 現在の漁業経営について

① あなたの漁業に携わっている人数を記入してください。

〔 15歳以上 で報酬の有無に関わらず、昨年1年間（令和3年1月～12月）に1日でも漁業に携わった人数を記入してください。コンブの手伝いや魚の網外し作業も含まれます。 〕

(1) 世帯員（あなたを含む）で携わっている人 人

(例)本人,妻,子1人(15歳以上)→3人 ※法人は従業員数を記入

(2) 世帯員以外で携わっている人 人 ※法人は記入不要

（裏面に続きます）

② 昨年1年間（令和3年1月～12月）の漁業にかかったおおよその支出額を記入してください。

- | | | |
|---------------------------|--|----|
| (1) 人件費（賃金や飲み物代など） | | 万円 |
| (2) 燃料費（漁船や乾燥機など） | | 万円 |
| (3) 水道光熱費（倉庫等の水道料，電気料など） | | 万円 |
| (4) 資材費（毎年の消耗品，船や網のローンなど） | | 万円 |
| (5) その他（組合の経営負担金など） | | 万円 |

③ 漁業をしているうえで課題となっていることはありますか？
当てはまるものに3つまで○をつけてください。

- | | |
|--------------------------|-----------------------|
| <input type="checkbox"/> | (1) 魚やコンブなどの水揚げが減っている |
| <input type="checkbox"/> | (2) 魚やコンブなどの価格が安い |
| <input type="checkbox"/> | (3) 漁獲規制による影響 |
| <input type="checkbox"/> | (4) 経費の負担が大きい |
| <input type="checkbox"/> | (5) 従業員（手伝い）が確保できない |
| <input type="checkbox"/> | (6) 後継者がいない |
| <input type="checkbox"/> | (7) 特にない |
| <input type="checkbox"/> | (8) その他（具体的に： _____） |

3 コンブ養殖漁業について

① 現在、コンブ養殖漁業を営んでいますか？

- | | |
|--------------------------|--------------|
| <input type="checkbox"/> | (1) 営んでいる |
| <input type="checkbox"/> | (2) 営んでいない |
| <input type="checkbox"/> | (3) 検討中 |
| <input type="checkbox"/> | (4) 過去に営んでいた |

→ 主な理由として当てはまるものに2つまで○をつけてください。

- | | |
|--------------------------|-----------------------|
| <input type="checkbox"/> | (1) 必要がなかったから |
| <input type="checkbox"/> | (2) 自分の性格に合わないから |
| <input type="checkbox"/> | (3) 労力的にキツイから |
| <input type="checkbox"/> | (4) 養殖施設の空きが無いから |
| <input type="checkbox"/> | (5) 設備投資が大変だから |
| <input type="checkbox"/> | (6) 従業員（手伝い）が確保できないから |
| <input type="checkbox"/> | (7) 家族の理解が得られないから |
| <input type="checkbox"/> | (8) その他（具体的に： _____） |

④ 漁業者の子どもが漁業を継がない理由として考えられるものに3つまで○をつけてください。

- (1) 仕事がきついから
- (2) 危険な仕事だから
- (3) 収入が不安定だから（漁模様によって左右される）
- (4) 仕事がきつい割に儲からないから
- (5) 設備更新にお金がかかるから
- (6) 他の仕事の方が魅力を感じるから
- (7) 都市部の生活への憧れ
- (8) その他（具体的に：_____）

6 漁業の魅力について

漁業に携わるうえで、どのようなところにやりがいや魅力を感じますか？
当てはまるものに3つまで○をつけてください。

- (1) 自分の努力（技術）で次第で収入を増やせる
- (2) 自分のペースで働くことができる
- (3) 家族と一緒に働くことができる
- (4) 狙っていた魚などが大量に獲れたとき
- (5) 自然に囲まれて働ける
- (6) 新鮮でおいしい水産物が食べられる
- (7) 地域の活性化に貢献できる
- (8) 日本の食文化を支える大切な仕事である
- (9) その他（具体的に：_____）

7 自由記載

最後に、行政に期待する支援や要望等がありましたらご記入ください。

ご協力ありがとうございました